

---

# PrintWalker/LXE 説明書(導入編)

V16L60 用



---

# まえがき

## 本書の目的

『PrintWalker/LXE』は、『Linux』から、LAN (TCP/IP) に接続されたシステムプリンタ (PS5000 シリーズおよびVSPシリーズ) に印刷を行うソフトウェア製品です。

本書は、『PrintWalker/LXE』を使用してプリンタ装置へ印刷するための導入手順を説明しています。

## 本書の読者

このマニュアルは、本製品を導入する方および本製品を使用される方を対象にしています。

## 表記上の約束

このマニュアルは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

字体または記号	意味
ABCabc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータの出力例を表します。
<b>ABCabc123</b> (太字)	ユーザが入力する文字を表します。
<i>ABCabc123</i> (斜体)	変数を表します。実際に使用する時には、特定の名前または値で置き換えます。
¥	枠で囲まれたコード例で、文字列がページ行幅を超える場合に、継続を示します。
\$ <b>command</b>	一般ユーザでのコマンド入力を表します。
# <b>command</b>	スーパー・ユーザでのコマンド入力を表します。

---

本書では、オペレーティングシステムを略称で表記している箇所があります。

#### Linuxの場合

製品名称	略称
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)	RHEL5(x86)
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)	RHEL5(Intel64)
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)	RHEL6(x86)
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)	RHEL6(Intel64)
Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)	RHEL7(Intel64)
Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)	RHEL8(Intel64)

※略称表記の際、アーキテクチャーに依存しない場合はアーキテクチャーの表記（括弧内）を省略することがあります。

#### Windowsの場合

製品名称	略称
Microsoft® Windows Server® 2019 Standard	Windows Server 2019
Microsoft® Windows Server® 2019 Datacenter	
Microsoft® Windows Server® 2016 Standard	Windows Server 2016
Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Foundation	Windows Server 2012 R2
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	
Microsoft® Windows Server® 2012 Foundation	Windows Server 2012
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	
Windows® 10 Home	Windows 10
Windows® 10 Pro	
Windows® 10 Enterprise	
Windows® 10 Education	
Windows® 8.1	Windows 8.1
Windows® 8.1 Pro	
Windows® 8.1 Enterprise	

本書では、“Linuxサーバ”を“ホスト”と表記している箇所があります。

本書では、“VSPシリーズ”や“VSPプリンタ”と表記している箇所がありますが、特にことわりがない限り、マルチプラットフォームプリンタ（PS5000シリーズ）も含みます。

---

## 本書の構成

このマニュアルは、以下の構成になっています。

### 第1部 はじめに

#### 第1章 はじめに

本製品の概要について説明します。

### 第2部 セットアップ

#### 第2章 インストール

本製品のインストール作業について説明します。

#### 第3章 アンインストール

本製品のアンインストール作業について説明します。

#### 第4章 印刷形態毎のセットアップ

印刷形態毎固有のセットアップ作業について説明します。

#### 第5章 プリンタ定義

プリンタ定義方法について説明します。

### 付 録

#### 付録A サポートプリンタ

本製品でサポートするプリンタについて説明します。

#### 付録B 環境ファイル

本製品の動作環境を設定するファイルについて説明します。

#### 付録C setprtコマンド（旧バージョン互換）

本製品の旧バージョンで使ったsetprtコマンドについて説明します。

## 登録商標について

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Common UNIX Printing System、CUPSおよびCUPSロゴは、Apple Inc. の登録商標です。

UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載の会社名、商品名等は各社の商標、または登録商標である場合があります。以降、本書では、®、™ を略記しています。

2020年 8月 初 版
--------------

---

## 告知文

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

## お 願 い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

Copyright FUJITSU LIMITED 2004-2020

---

# 目次

第1部	はじめに .....	1
第1章	はじめに .....	2
1.1	製品構成 .....	3
1.2	システム構成 .....	4
1.3	ディストリビューション .....	5
1.3.1	動作ディストリビューション .....	5
1.3.2	SELinuxについて .....	5
第2部	セットアップ .....	7
第2章	インストール .....	8
2.1	インストール作業の流れ .....	9
2.2	ネットワーク環境の設定 .....	10
2.2.1	ファイアウォールの設定 .....	10
2.3	CUPSの設定 .....	11
2.3.1	ログファイルサイズ .....	12
2.3.2	ジョブキャンセルの権限制限 .....	13
2.3.3	構成／状態ファイル更新間隔 .....	14
2.3.4	ジョブ強制終了待ち時間 .....	14
2.3.5	印刷完了待ち時間 .....	15
2.3.6	ジョブアクセスの権限制限 .....	15
2.3.7	その他の関連する項目 .....	16
2.4	関連ソフトウェアのインストール .....	17
2.4.1	『Interstage Charset Manager』－『標準コード変換』のインストール .....	17
2.4.2	『Interstage Charset Manager』－『外字連携』のインストール .....	17
2.5	本製品のインストール .....	18
2.5.1	本製品インストール時の注意事項 .....	22
2.6	本製品のカスタマイズ .....	23
2.6.1	ポート番号の変更 .....	23
2.6.2	課金情報の設定 .....	24
2.6.3	環境ファイルの設定 .....	26
2.7	アラート機能の設定 .....	27
第3章	アンインストール .....	28
3.1	サーバ側のアンインストール .....	29
3.1.1	サーバ側のアンインストールの流れ .....	29
3.1.2	アンインストールの注意事項 .....	33
第4章	印刷形態毎のセットアップ .....	34
4.1	インパクトプリンタへの印刷形態 .....	35
4.1.1	テキスト／COBOL印刷時のセットアップ .....	35
4.2	ページプリンタへの印刷形態 .....	36

---

4.2.1 テキスト／COBOL／MeFt印刷時のセットアップ .....	36
4.2.2 List Works連携印刷時のセットアップ .....	38
<b>第5章 プリンタ定義 .....</b>	<b>39</b>
5.1 プリンタ装置の設定 .....	40
5.2 プリンタ名の定義 .....	41
5.2.1 事前準備 .....	43
5.2.2 プリンタ名の新規作成 .....	44
5.2.3 プリンタ名の参照作成 .....	49
5.2.4 プリンタ名の変更 .....	55
5.2.5 プリンタ名の表示 .....	59
5.2.6 プリンタ名の削除 .....	61
5.2.7 プリンタ名の退避 .....	65
5.2.8 プリンタ名の復元 .....	70
5.2.9 プリンタ名の定義における注意事項 .....	74
5.3 デフォルトプリンタの設定 .....	75
5.4 環境ファイル（プリンタ名別固有環境）の設定 .....	76
<b>付録A サポートプリンタ .....</b>	<b>77</b>
A.1 サポートプリンタ .....	78
<b>付録B 環境ファイル .....</b>	<b>79</b>
B.1 環境ファイル .....	80
B.1.1 NOCANCELBANNER（キャンセルバナーページの抑止） .....	82
B.1.2 DISCOMTIME（無通信監視タイマー） .....	82
B.1.3 INET（ネットワーク接続指定） .....	82
B.1.4 PAPERCODE（用紙掛け替え通知） .....	83
B.1.5 BANNERPCODE（用紙掛け替え通知タイミング） .....	83
B.1.6 TTFFOLDER（TrueTypeフォント外字ファイル格納パス） .....	83
B.1.7 TTFNAMEM（TrueTypeフォント明朝体外字ファイル名） .....	84
B.1.8 TTFNAMEG（TrueTypeフォントゴシック体外字ファイル名） .....	84
B.1.9 TTFAREA（TrueTypeフォント外字登録範囲） .....	84
B.1.10 CONDITION（TrueTypeフォント外字登録モード） .....	85
B.1.11 OFFSET（コピーセパレーションマーク） .....	85
B.1.12 JEFCHARCODE（文字コード変換指定） .....	86
B.1.13 JOBINFO（ジョブ情報通知） .....	86
B.1.14 FCBPRINT（FCB用紙長単位指定） .....	87
B.1.15 CONVERR（データ変換エラー通知） .....	87
B.1.16 RESUME（保留再開） .....	88
B.1.17 RETRYINTERVAL1（リトライ間隔1） .....	89
B.1.18 RETRYINTERVAL2（リトライ間隔2） .....	89
B.1.19 LOG（トレースログ採取） .....	90
B.1.20 LOGRECORD（トレースログレコード長） .....	90
B.1.21 LOGFILESIZE（トレースログファイル容量） .....	90
B.1.22 *PRINTERNAME（プリンタ名別固有環境の宣言） .....	90
<b>付録C setprtコマンド（旧バージョン互換） .....</b>	<b>91</b>
C.1 setprt（プリンタ定義）コマンド .....	92

---



---

C.1.1	ページプリンタ（単票）のプリンタ名の定義方法.....	92
C.1.2	ページプリンタ（連帳）のプリンタ名の定義方法.....	93
C.1.3	インパクトプリンタのプリンタ名の定義方法.....	94
C.1.4	エラーメッセージ一覧.....	95



---

## 第1部 はじめに

---

---

---

# 第1章 はじめに

本製品の概要について説明します。  
本章の構成は、以下のとおりです。

- 1.1 製品構成
- 1.2 システム構成
- 1.3 ディストリビューション

## 1.1 製品構成

『PrintWalker/LXE』（以降、本製品）は、Red Hat Enterprise Linux（以降、RHEL）サーバからLAN（TCP/IP）に接続されているシステムプリンタ（VSPシリーズおよびPS5000シリーズ）への印刷および印刷中に表示されたメッセージの通知、操作を行うためのソフトウェアです。

本製品は、表1.1に示したパッケージにより構成されています。

**表1.1 本製品のパッケージ**

パッケージ名	パッケージ正式名称	内 容
FJSVbsnps	BuSiNess/Printer/Support	VSPシリーズに印刷するためのソフトウェア
FJSVprcnv	Print data convert filters option	VSPシリーズに印刷するデータの変換を行うソフトウェア
FJSVprweb	Printer Web alert option	印刷中に発生した異常または用紙掛け替えなどのメッセージをGUIでユーザに通知し、操作するためのソフトウェア
FJSVbsnp8	Business Printer Control/EX	PS5000シリーズプリンタに印刷するためのソフトウェア

## 1.2 システム構成

本製品は、図1.1に示すようなシステム構成になっています。

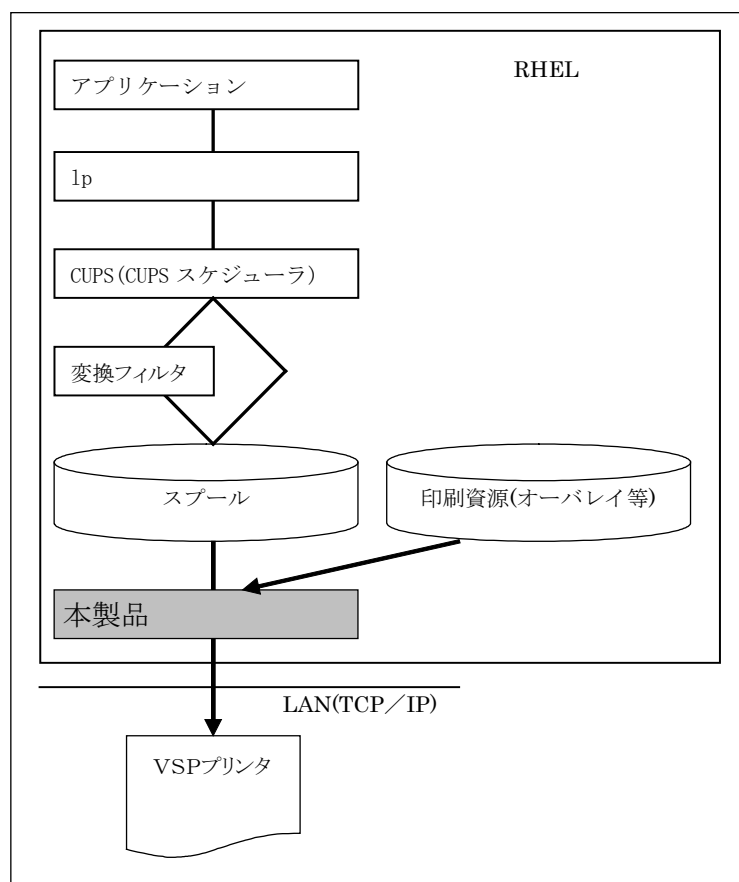


図1.1 本製品のシステム構成

## 1.3 ディストリビューション

### 1.3.1 動作ディストリビューション

本製品が動作するディストリビューションは、表1.3のとおりです。

**表1.3 本製品のサポートディストリビューション**

ディストリビューション	補足
RHEL5 (x86)	
RHEL5 (Intel64)	
RHEL6 (x86)	
RHEL6 (Intel64)	
RHEL7 (Intel64)	下記のOS修正パッケージの適用が必要です。 RHBA-2014:1811-1 (kernel-3.10.0-123.9.3.el7) 以降
RHEL8 (Intel64)	

### 1.3.2 SELinuxについて

SELinux (Security-Enhanced Linux) とは、米国のNSA (National Security Agency) が中心になって開発した、Linux カーネルのセキュリティ拡張モジュールです。

本製品では、RHEL6.2以降からSELinuxを有効にした環境での運用をサポートしています。RHEL6.1以前の場合は、SELinuxは無効にしてください。

**表1.4 SELinuxの状態による本製品のサポート状況（動作可否）**

ディストリビューション	SELinuxの状態	
	無効	有効
RHEL5	○	×
RHEL6.0、RHEL6.1	○	×
RHEL6.2以降	○	○
RHEL7	○	○
RHEL8	○	○

○：サポート（動作可）、×：未サポート（動作不可）

以下に、SELinuxの状態を確認する方法、およびSELinuxが有効な環境で本製品を使用する場合の注意事項を示します。

### 1.3.2.1 SELinuxの状態を確認する方法

getenforceコマンドを実行してSELinuxの状態を確認します。

```
# /usr/sbin/getenforce
Enforcing          ← 有効
または
Disabled           ← 無効
または
Permissive         ← 警告のみ（無効）
#
```

図1.2 SELinuxの状態確認

### 1.3.2.2 SELinuxを有効にした環境で本製品を使用する場合の注意事項

- 本製品のインストール後、ポリシーモジュールのインストールとリラベル処理が必要です。  
詳細は「2.5 本製品のインストール」を参照してください。
- 印刷資源は“/usr/local/lib/FJSVlp”ディレクトリ配下に配置する必要があります。  
詳細は「【機能編】15章 印刷資源に関する注意事項」を参照してください。
- 課金情報ファイルにシンボリックリンクを利用することができません。  
詳細は「2.6.2 課金情報の設定」を参照してください。



---

## 第2部 セットアップ

---

---

---

## 第2章 インストール

本章では、本製品のインストール作業について説明します。  
本章の構成は、以下のとおりです。

- 2.1 インストール作業の流れ
  - 2.2 ネットワーク環境の設定
  - 2.3 CUPSの設定
  - 2.4 関連ソフトウェアのインストール
  - 2.5 本製品のインストール
  - 2.6 本製品のカスタマイズ
  - 2.7 アラート機能の設定
-

## 2.1 インストール作業の流れ

インストール手順について説明します。

インストール作業は、以下の手順で実施します。

1. ネットワーク環境の設定を行います。
2. CUPSの設定を行います。
3. 関連製品のインストールを行います。
4. 本製品のインストールを行います。
5. 必要に応じて、本製品のカスタマイズを行います。
6. アラート機能を使用する場合、アラート機能の設定を行います。

## 2.2 ネットワーク環境の設定

### 2.2.1 ファイアウォールの設定

プリンタが本製品から印刷データを受信するために、ポート番号“9313”（デフォルト）を使用しています。

また、クライアント（メッセージ通知端末）がサーバからのメッセージ通知を受信するため、およびサーバがクライアントからのメッセージ応答を受信するために、ポート番号“9929”（デフォルト）を使用しています。

サーバとプリンタ間、およびサーバとクライアント間にファイアウォールを設置する場合は、これらのポート番号が通過できるように設定してください。

使用するポート番号を変更した場合は、その変更したポート番号に読み替えてください。

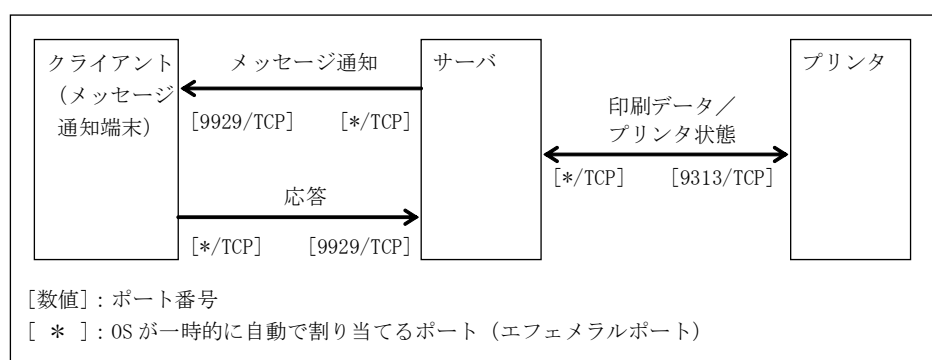


図2.1 ポート番号の使用状況

## 2.3 CUPSの設定

本製品は、印刷システムとしてCUPSを使用しています。

必要に応じて、CUPSの設定を変更します。

- 接続可能クライアント数
- ログファイルサイズ
- キャンセルとジョブの認証

設定の変更は、“/etc/cups/cupsd.conf” ファイルをviコマンド等のテキストエディタで行います。

変更は次の手順で行ってください。

1. CUPSスケジューラを停止します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups stop
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl stop cups.socket cups.path cups.service
```

2. “/etc/cups/cupsd.conf” ファイルを編集します（2.3.1項 ～ 2.3.7項 参照）。

3. CUPSスケジューラを起動します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups start
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl start cups.socket cups.path cups.service
```

## 2.3.1 ログファイルサイズ

CUPSのログファイルの最大サイズを変更します。

なお、本項目の設定はRHEL8では無効です。

変更する項目は以下のとおりです。

- MaxLogSize

“MaxLogSize” 設定値に “0” が設定されると、ログファイルサイズが増え続け、2GB(ギガバイト)に達するとCUPSが停止する場合がありますので注意が必要です。

“MaxLogSize” 設定値に “0” 以外が設定されると、ログファイルサイズがその設定サイズを超えた後に変名され、新たなファイルにログが出力されます。この場合、CUPSが停止してしまうことはありません。

-rw-r--r--	1	lp	sys	69	12月 17 18:09	access_log
-rw-r--r--	1	lp	sys	1048621	12月 17 18:09	access_log.0

実際に作成されるCUPSのログファイルのサイズは、本項目の設定値を若干超える場合があります。余裕をもたせた値を設定してください。

変更例を以下に示します。

<変更前>

MaxLogSize 0
--------------

<変更後>

MaxLogSize 1048576
--------------------

(注) <変更前>の初期値は、ディストリビューションのバージョンにより異なる場合があります。

## 2.3.2 ジョブキャンセルの権限制限

ジョブのキャンセルが可能な権限を変更します。

この変更を行わない場合、本来、白紙など印刷結果が異常な用紙が出力され続けることを防止するために、本製品がジョブをキャンセルするエラー（エラー番号が0210、0627のエラー）が発生してもキャンセルが行われません。エラーについては、「【保守編】第3章 印刷時のエラーメッセージ」を参照してください。

変更する項目は以下のとおりです。

- Limit Cancel-Job CUPS-Authenticate-Job

“Limit Cancel-Job CUPS-Authenticate-Job” の “Require user” に “lp” を追加します。

<変更前>

```
# Only the owner or an administrator can cancel or authenticate a job...
<Limit Cancel-Job CUPS-Authenticate-Job>
    Require user @OWNER @SYSTEM
    Order deny,allow
</Limit>
```

<変更後>

```
# Only the owner or an administrator can cancel or authenticate a job...
<Limit Cancel-Job CUPS-Authenticate-Job>
    Require user @OWNER @SYSTEM lp
    Order deny,allow
</Limit>
```

(注) <変更前>の初期値は、ディストリビューションのバージョンにより異なる場合があります。  
また、“/etc/cups/cupsd.conf” ファイルにUser項目が設定されている場合、User項目に設定されたユーザを“Limit Cancel-Job CUPS-Authenticate-Job” の “Require user” にも追加してください。

### 2.3.3 構成／状態ファイル更新間隔

CUPSの構成や、ジョブ状態を示す各種ファイルの更新間隔（単位は秒）を変更します。

この変更を行わない場合、印刷状態を表示するためのlpstatlxeコマンドが正常に動作しないなど、本製品の動作に支障をきたす場合がありますので、必ず変更してください。lpstatlxeコマンドについては、「【操作編】6.4 lpstatlxe（印刷状態表示）コマンド」を参照してください。

なお、本項目の変更はRHEL6以降の場合に必要です。

追加する項目は以下のとおりです。

- DirtyCleanInterval

以下のように記述します。値は“0”を設定します。

<記述内容>

DirtyCleanInterval	0
--------------------	---

### 2.3.4 ジョブ強制終了待ち時間

印刷中のジョブをキャンセルや保留したとき、そのジョブの印刷に関連したフィルタを強制終了させるための待ち時間（単位は秒）を変更します。

この変更を行わない場合、次のようなとき、印刷が途中で終了してしまうことがありますので、必ず変更してください。

- － 保留したジョブを保留解除（印刷再開）したとき
- － lpコマンド実行時に、“-i job-id（印刷要求指定）” オプションを指定したとき
- － アラート機能において、印刷再開するページを指定して「続行」ボタンを押下したとき
- － アラート機能において、「テストプリント」ボタンを押下したとき

なお、本項目の変更はRHEL6の場合のみ必要です。

追加する項目は以下のとおりです。

- JobKillDelay

以下のように記述します。値は“0”を設定します。

<記述内容>

JobKillDelay	0
--------------	---



## 2.3.5 印刷完了待ち時間

ジョブを投入したとき、そのジョブの印刷が完了しない場合に終了させるための待ち時間（単位は秒）を変更します。

この変更を行わない場合、大量ページの印刷やプリンタのエラーなど、印刷の完了に時間がかかると、印刷が途中で打ち切られることがあるので、必ず変更してください。

なお、本項目の変更はRHEL7以降の場合に必要です。

追加する項目は以下のとおりです。

- MaxJobTime

以下のように記述します。

<記述内容>

【RHEL7】

MaxJobTime	0
------------	---

【RHEL8以降】

MaxJobTime	2147483647
------------	------------

## 2.3.6 ジョブアクセスの権限制限

ジョブのアクセスが可能な権限を変更します。

この変更を行わない場合、一般ユーザにてジョブの状態を確認したとき、他のユーザが投入したジョブの所有者やファイル名が“unknown”と表示されます。

なお、本項目の変更はRHEL7以降の場合に必要です。

変更する項目は以下のとおりです。

- JobPrivateAccess

以下のように、ジョブの状態を確認するユーザを追加します。

<変更前>

# Job/subscription privacy...
JobPrivateAccess default

<変更後>

# Job/subscription privacy...
JobPrivateAccess default ユーザ名

## 2.3.7 その他の関連する項目

### (1) スプール複写指定

印刷を終了（印刷完了／キャンセル／中断）した後であっても、印刷データをスプールに保存しておきたい場合に変更します。

ただし、保存される印刷データ数が“MaxJobs”の設定値を超える場合、古い印刷データから順に削除されていきますので注意してください。“MaxJobs”の設定については、以下の「(2) ジョブの履歴情報」も参考にしてください。

変更する項目は以下のとおりです。

- PreserveJobFiles

変更するには、先頭の“#”をはずし、“No”を“Yes”にします。

<変更前>

#PreserveJobFiles	No
-------------------	----

<変更後>

PreserveJobFiles	Yes
------------------	-----

(注) <変更前>の初期値は、ディストリビューションのバージョンにより異なる場合があります。

### (2) ジョブの履歴情報

ジョブの履歴情報はメモリに格納されます。多くのキューやクライアントを持つサーバでは、ジョブ履歴情報は多くのメモリを消費し、スケジューラの起動を遅くする原因となります。lpコマンド等の動作が遅くなった場合、履歴情報の最大値を小さくしてください。

デフォルトでは500件のジョブの履歴情報が保存されます。

変更する項目は以下のとおりです。

- MaxJobs

印刷中または印刷待ちのジョブ数が“MaxJobs”の設定値に達した場合、さらに印刷を行うとエラーとなりますので注意してください。

変更するには、先頭の“#”をはずし、値を設定します。変更例を以下に示します。

<変更前>

#MaxJobs	500
----------	-----

<変更後>

MaxJobs	100
---------	-----

(注) <変更前>の初期値は、ディストリビューションのバージョンにより異なる場合があります。

## 2.4 関連ソフトウェアのインストール

### 2.4.1 『Interstage Charset Manager』－『標準コード変換』のインストール

本製品を使用するにあたって、『Interstage Charset Manager』－『標準コード変換』機能は必須製品です。

### 2.4.2 『Interstage Charset Manager』－『外字連携』のインストール

本製品を使用するにあたって、『Interstage Charset Manager』－『外字連携』機能は必須製品です。

## 2.5 本製品のインストール

本節では、本製品のインストール手順について説明します。

XWindow画面でインストールを行う場合、ターミナルを起動し、コマンドを入力します。

1. スーパ・ユーザでログインします。他ユーザがログインしていないことを確認してください。

```
# who
```

2. 本製品が既にインストールされていないか確認します。

```
# rpm -q FJSVbsnps
パッケージ FJSVbsnps はインストールされていません      ←インストール未の場合
または、
FJSVbsnps-xx.xx-xx      (xxは任意の数字)                ←インストール済の場合

# rpm -q FJSVprcnv
パッケージ FJSVprcnv はインストールされていません      ←インストール未の場合
または、
FJSVprcnv-xx.xx-xx      (xxは任意の数字)                ←インストール済の場合

# rpm -q FJSVprweb
パッケージ FJSVprweb はインストールされていません      ←インストール未の場合
または、
FJSVprweb-xx.xx-xx      (xxは任意の数字)                ←インストール済の場合

# rpm -q FJSVbsnp8
パッケージ FJSVbsnp8 はインストールされていません      ←インストール未の場合
または、
FJSVbsnp8-xx.xx-xx      (xxは任意の数字)                ←インストール済の場合
```

1 つでもインストール済だった場合は、アンインストールします（「第3章 アンインストール」参照）。

なお、同一バージョンレベルのパッケージを再インストールする場合、本製品の環境ファイルの再利用が可能です。再利用する場合は、環境ファイルを退避後、再インストールします。なお、環境ファイルについては、「付録B 環境ファイル」を参照してください。

```
# cp /etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpseenv 退避先
```

3. CUPSスケジューラを停止します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups stop
```

```
cupsを停止中:      [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl stop cups.socket cups.path cups.service
```

4. CD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットします。  
自動的にマウントされない場合は、手動でマウントしてください。  
以下にマウント方法の例を示します。

[例]

```
# mount CD-ROM装置のデバイス CD-ROM装置のマウントポイント
```

(注) 「*CD-ROM装置のデバイス*」、「*CD-ROM装置のマウントポイント*」はご使用の環境によって異なります。(例えば、「CD-ROM装置のデバイス」は、“/dev/cdrom”、“/dev/dvd”、「CD-ROM装置のマウントポイント」は、“/mnt/cdrom”、“/media/cdrom”、“/media/cdrecorder”等)  
ご使用の環境でのデバイス、マウントポイントを指定してください。

5. CD-ROM媒体に格納された“setup”コマンドを実行します。  
 (“setup” コマンド格納ディレクトリに移動後、“setup” コマンドを実行します。)

```
# cd CD-ROM装置のマウントポイント/PWLKRLXE/SETUP  
# ./setup
```

(注) 「*CD-ROM装置のマウントポイント*」は、“/mnt/cdrom”、“/media/cdrom”、“/media/cdrecorder”等、ご使用の環境によって異なります。ご使用の環境でのマウントポイントを指定してください。

6. インストール実行時に、以下のメッセージが表示されます。メッセージに従ってインストールします。メッセージの言語は起動端末の言語環境により、日本語 (ja\_JP, eucJP, ja\_JP.UTF-8) または英語で表示されます。  
途中でコマンドを中止する場合は、[q]を指定してください。  
(コンソール画面の場合、**# LANG=C** を入力して英語環境にしてください。)

#### 【日本語】

##### (1) 処理の選択

PrintWalker/LXE (V16L60) セットアップ

処理を選択してください。

- 1.インストール
- 2.アンインストール
- q.中止

「1. インストール」を指定します。

なお、本製品に含まれるパッケージが1つでもインストールされている場合は、「すでにインストールされています。」のメッセージが表示され、“setup” コマンドは終了します。  
アンインストールしたあと、インストールしてください。

##### (2) インストールモードの選択

使用する「Interstage Charset Manager」に応じて選択してください。

- 1. 32ビット互換モード (x86版を使用する場合)
- 2. 64ビットモード (Intel64版を使用する場合)
- q. 中止

(注) インストールモードの選択メニューは、64ビットOSの場合にのみ表示されます。

インストールモードの選択メニューが表示された場合、本製品と共に使用される「Interstage Charset Manager」(必須製品)に応じて、次のように指定してください。

x86版の場合 : 32ビット互換モード  
Intel64版の場合 : 64ビットモード

### (3) インストールの確認

インストールを開始しますか？

- 1.はい
- q.中止

「1. はい」を指定するとインストールを開始します。

### (4) インストール実行中

Preparing...	##### [100%]
1:FJSVbsnps	##### [100%]
Preparing...	##### [100%]
1:FJSVprcnv	##### [100%]
Preparing...	##### [100%]
1:FJSVprweb	##### [100%]
Preparing...	##### [100%]
1:FJSVbsnp8	##### [100%]

### (5) インストールの終了

PrintWalker/LXEは、インストールされました。（CUPSを再起動してください。）

## 【英語】

### (1) 処理の選択

PrintWalker/LXE (V16L60) setup

Please select function.

- 1.install
- 2.uninstall
- q.quit

「1. install」を指定します。

なお、本製品に含まれるパッケージが1つでもインストールされている場合は、「Already installed.」のメッセージが表示され、“setup” コマンドは終了します。アンインストールしたあと、インストールしてください。

### (2) インストールモードの確認

Please select according to "Interstage Charset Manager" used.

- 1. 32bit compatible mode (use of x86 version)
- 2. 64bit mode (use of Intel64 version)
- q. quit

（注）インストールモードの選択メニューは、64ビットOSの場合にのみ表示されます。

インストールモードの選択メニューが表示された場合、本製品と共に使用される「Interstage Charset Manager」（必須製品）に応じて、次のように指定してください。

x86版の場合       : 32bit compatible mode (32ビット互換モード)

Intel64版の場合 : 64bit mode (64ビットモード)

### (3) インストールの確認

Start Install?

- 1.yes
- q.quit

「1. yes」を指定するとインストールを開始します。

## (4) インストール実行中

Preparing...	##### [100%]
1:FJSVbsnps	##### [100%]
Preparing...	##### [100%]
1:FJSVprcnv	##### [100%]
Preparing...	##### [100%]
1:FJSVprweb	##### [100%]
Preparing...	##### [100%]
1:FJSVbsnp8	##### [100%]

## (5) インストールの終了

PrintWalker/LXE is installed. (Please restart CUPS.)

7. 2. で環境ファイルを退避した場合は、復元します。

```
# cp 退避先/bsnpsenv /etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv
# chmod 755 /etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv
# chown root /etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv
# chgrp sys /etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv
```

8. CD-ROM装置をアンマウントし、CD-ROM媒体を取り出します。

```
# cd
# umount CD-ROM装置のマウントポイント
```

(注) 「*CD-ROM装置のマウントポイント*」は、“/mnt/cdrom”、“/media/cdrom”、“/media/cdrecorder”等、ご使用の環境によって異なります。ご使用の環境でのマウントポイントを指定してください。

9. CUPSスケジューラを起動します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups start
```

cupsを起動中: [ OK ]

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl start cups.socket cups.path cups.service
```

10. SELinuxを有効にした環境で使用する場合は、下記のように本製品のポリシーモジュールをインストールした後、リラベルを行います。

(注) SELinuxを有効にした環境での運用は、RHEL6.2以降でのみサポートしています。ポリシーモジュールのインストールやリラベルには時間がかかる場合があります。

## (1) ポリシーモジュールのインストール

```
# /usr/sbin/semodule -i /opt/FJSVbsnps/policy/fjsvbsnps.pp
```

## (2) リラベルの実施

```
# touch /.autorelabel
# /sbin/shutdown -r now
```

“/ (ルート)” 直下に “*.autorelabel*” という名前のファイルを作成し、システムを再起動します。

## 2.5.1 本製品インストール時の注意事項

- インストール時に rpm コマンドからメッセージが出力される場合があります。  
詳細は rpm コマンドのマニュアルを参照してください。  
(例) 「package FJSVbsnps-xx.xx-x is already installed」  
… 既にインストール済みの同一版数のパッケージをインストールしようとした場合。  
  
なお、下記のメッセージが出力された場合には、OS のインストール媒体を使用し、“compat-libtermcap” パッケージをインストールしてください。  
「libtermcap. so. 2 は FJSVbsnps-xx.xx-xx.xxx に必要とされています」
- サービス名とポート番号の登録  
インストール時に、サービス名（“bnp”）とポート番号（“9313”）が “/etc/services” ファイルに設定されます。  
“/etc/services” ファイルが存在しない、あるいは書込み権限がない等のために設定できなかった場合、  
「Error:cannot add port in /etc/services.Package install continue.」が表示されます。
- インストール先のディレクトリは、rpm コマンド（“rpm -ql パッケージ名”）で確認できます。
- インストール時に “FJSVbsnps.cron” ファイルが “/etc/cron.daily”、および “/etc/cron.hourly” ディレクトリに格納されます。  
このファイル（スクリプト）は、下記を目的として定期的に行われます。
  - 本製品が作成する作業ファイルで、不要になったものが残っていた場合に削除します。
- CD-ROM が自動的にマウントされる時、“setup” コマンドを実行すると「./setup: /bin/sh: bad interpreter: 許可がありません」のようにエラーが発生する場合があります。その場合は、いったんアンマウントし、手動でマウントし直してください。



## 2.6 本製品のカスタマイズ

### 2.6.1 ポート番号の変更

本製品がプリンタとの通信で使用するサービス名およびポート番号は、表2.1のとおりです。

表2.1 サービス名とポート番号

ポート番号使用機能	サービス名	ポート番号
印刷制御機能	bpp	9313

上記サービス名とポート番号は本製品のインストール時に自動設定されますので、通常は変更する必要はありません。ただし、このポート番号を他製品で使用している場合は変更する必要があります。

ポート番号を変更する際は、他のサービスのポート番号と重なっていないかを確認してください。ポート番号が他のサービスと重なっていると、本製品は正しく動作しません。

“bpp”のポート番号を変更した場合は、プリンタ装置のポート番号も同様に変更してください。プリンタ装置側のポート番号の変更については、各プリンタ装置側の取扱説明書に従ってください。

NIS+の運用がされているシステムでは、必ずNISのテーブルに“bpp”の情報を設定するか、あるいはネームサービススイッチの環境を確認してください。

#### ● 印刷制御機能で使用するポート番号の変更

印刷制御機能のポート番号を変更する場合は、“/etc/services”ファイルをviコマンド等のテキストエディタで変更します。なお、サービス名は変更できません。

ポート番号変更後は、システムを再起動してください。

“/etc/services”ファイルの内容例を図2.2に示します。

# /etc/services:			
# \$Id: services,v 1.32 2003/01/09 17:56:30 dwalsh Exp \$			
#			
# Network services, Internet style			
#			
nfsd	2049/udp	nfs	# NFS server daemon (clts)
nfsd	2049/tcp	nfs	# NFS server daemon (cots)
listen	2766/tcp		# System V listener port
bpp	9313/tcp		# FJSVbsnps package
↓	↓	↓	
サービス名	ポート番号	コメント	

図2.2 /etc/servicesファイルの内容例

## 2.6.2 課金情報の設定

### 課金情報が不要な場合

課金情報ファイルを削除します。削除する場合はCUPSスケジューラを停止した状態で実施してください。以下に削除手順について説明します。

- (1) CUPSスケジューラを停止します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups stop
cupsを停止中: [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl stop cups.socket cups.path cups.service
```

- (2) 課金情報ファイルを削除します。

```
# rm /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile
```

- (3) CUPSスケジューラを起動します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups start
cupsを起動中: [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl start cups.socket cups.path cups.service
```

本製品インストール時は課金情報を採取しない設定になっています。

### 課金情報が必要な場合

課金情報ファイルを作成します。採取する場合はCUPSスケジューラを停止した状態で、課金情報ファイルの空ファイルを作成し、ユーザ権限を“0600”、所有者／グループを“lp”に設定してください。以下に作成手順について説明します。

- (1) CUPSスケジューラを停止します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups stop
cupsを停止中: [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl stop cups.socket cups.path cups.service
```

- (2) 課金情報ファイルを作成します。

```
# ls -l /var/opt/FJSVlp/logs (a)
# touch /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile (b)
```

- ・ (a) の処理で課金情報ファイル (lxeacctfile) が存在した場合は、rmコマンドなどで削除してください。
- ・ (b) の処理は、空ファイルを作成します。

- (3) ユーザ権限／グループ／所有者を設定します。

```
# chmod 0600 /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile
# chgrp lp /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile
# chown lp /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile
```

- (4) CUPSスケジューラを起動します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups start
```

```
cupsを起動中: [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl start cups.socket cups.path cups.service
```

また、ファイルの実体を別ファイルシステム上に作成し、lnコマンド（“ln -s 別ファイルシステム上に作成したファイルのフルパス名 /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile”）を使用してシンボリックリンクにすることで、“/var”ファイルシステムの圧迫を避けることができます（注）。

（注）SELinuxを有効にした環境では、シンボリックリンクを使用できません。また、課金情報ファイル作成後に以下のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/restorecon -F /var/opt/FJSVlp/logs/lxeacctfile
```

### 2.6.3 環境ファイルの設定

環境ファイルは運用時の動作環境を設定するファイルです。本製品では環境ファイルの各項目を変更することで、さまざまな印刷属性を指定することができます。通常は変更する必要はありませんが、必要に応じて変更してください。

変更には、viコマンド等のテキストエディタを使用します。なお、ファイルの格納先は、以下のとおりです。

`/etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv`

環境ファイルの各項目については、「付録B 環境ファイル」を参照してください。

## 2.7 アラート機能の設定

本製品でアラート機能を使用する場合、運用前に【アラート編】を参照して、アラート機能の設定を行ってください。

---

## 第3章 アンインストール

本章では、本製品のアンインストール作業について説明します。  
本章の構成は、以下のとおりです。

### 3.1 サーバ側のアンインストール

## 3.1 サーバ側のアンインストール

### 3.1.1 サーバ側のアンインストールの流れ

本節では、本製品のアンインストール方法について説明します。

アンインストールは、以下の(1)、(2)のいずれかの方法で行ってください。

なお、本製品を使用するために定義したプリンタ名は、アンインストールする前に削除してください。

備考 本製品を使用するために定義したプリンタ名の確認には、“lpstat -v”を使用します。“lpstat -v”を実行すると、本製品のプリンタ名が下記の形式で表示されます。

```
device for printer-name: bpp://host-name/PRTn/type/…(略) …
“printer-name”      : プリンタ名
“host-name”         : プリンタ装置のホスト名またはIPアドレス
“n”                 : プリンタの論理プリンタ番号
“type”              : プリンタ装置の型名
```

#### (1) インストーラによるアンインストール

本製品のCD-ROMを用意します。

1. スーパ・ユーザでログインします。他ユーザがログインしていないことを確認してください。

```
# who
```

2. CUPSスケジューラを停止します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups stop
```

```
cupsを停止中: [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl stop cups.socket cups.path cups.service
```

3. CD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットします。  
自動的にマウントされない場合は、手動でマウントしてください。  
以下にマウント方法の例を示します。

〔例〕

```
# mount CD-ROM装置のデバイス CD-ROM装置のマウントポイント
```

(注) 「**CD-ROM装置のデバイス**」、「**CD-ROM装置のマウントポイント**」はご使用の環境によって異なります。(例えば、「CD-ROM装置のデバイス」は、“/dev/cdrom”、“/dev/dvd”、「CD-ROM装置のマウントポイント」は、“/mnt/cdrom”、“/media/cdrom”、“/media/cdrecorder”等)

ご使用の環境でのデバイス、マウントポイントを指定してください。

4. CD-ROM媒体に格納された“setup”コマンドを実行します。  
(“setup”コマンド格納ディレクトリに移動後、“setup”コマンドを実行します。)

```
# cd CD-ROM装置のマウントポイント/PWLKRLXE/SETUP
```

```
# ./setup
```

(注) 「**CD-ROM装置のマウントポイント**」は、“/mnt/cdrom”、“/media/cdrom”、“/media/cdrecorder”等、ご使用の環境によって異なります。ご使用の環境でのマウントポイントを指定してください。

5. アンインストール実行時に、以下のメッセージが表示されます。メッセージに従ってアンインストールします。メッセージの言語は起動端末の言語環境により、日本語 (ja\_JP, eucJP, ja\_JP.UTF-8) または英語で表示されます。  
なお、途中でコマンドを中止する場合は、[q]を指定してください。  
(コンソール画面の場合、**#LANG=C** を入力して英語環境にしてください。)

#### 【日本語】

##### (1) 処理の選択

PrintWalker/LXE (V16L60) セットアップ

処理を選択してください。

- 1.インストール
- 2.アンインストール
- q.中止

「2. アンインストール」を指定します。

##### (2) アンインストールの確認

アンインストールを開始しますか？

- 1.はい
- q.中止

「1. はい」を指定するとアンインストールを開始します。

##### (3) アンインストールの終了

PrintWalker/LXEは、アンインストールされました。

#### 【英語】

##### (1) 処理の選択

PrintWalker/LXE (V16L60) setup

Please select function.

- 1.install
- 2.uninstall
- q.quit

「2. uninstall」を指定します。

##### (2) アンインストールの確認

Start Uninstall?

- 1.yes
- q.quit

「1. yes」を指定するとアンインストールを開始します。

##### (3) アンインストールの終了

PrintWalker/LXE is uninstalled.



6. CD-ROM装置をアンマウントし、CD-ROM媒体を取り出します。

```
# cd
# umount CD-ROM装置のマウントポイント
```

(注) 「*CD-ROM装置のマウントポイント*」は、“/mnt/cdrom”、“/media/cdrom”、“/media/cdrecorder”等、ご使用の環境によって異なります。ご使用の環境でのマウントポイントを指定してください。

7. CUPSスケジューラを起動します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups start
```

cupsを起動中: [ OK ]

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl start cups.socket cups.path cups.service
```

8. 本製品のポリシーモジュールがインストールされているか確認します(注)。

```
# /usr/sbin/semodule -l | grep fjsvbsnps
```

fjsvbsnps x.x.x (xxは任意の数字) ←インストールされている場合

```
#
```

```
# /usr/sbin/semodule -l | grep fjsvbsnps
```

```
#
```

←インストールされていない場合

ポリシーモジュールがインストールされていた場合は削除します。

```
# /usr/sbin/semodule -r fjsvbsnps
```

(注) ポリシーモジュールは、SELinuxを有効にした環境で使用する場合にインストールされています。

ポリシーモジュールのアンインストールには時間がかかる場合があります。

## (2) rpmコマンドによるアンインストール

XWindow画面でアンインストールを行う場合、ターミナルを起動し、コマンドを入力します。

1. スーパ・ユーザでログインします。他ユーザがログインしていないことを確認してください。

```
# who
```

2. CUPSスケジューラを停止します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups stop
```

cupsを停止中: [ OK ]

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl stop cups.socket cups.path cups.service
```

3. rpmコマンドを実行します。

```
# rpm -e FJSVbsnps
```

```
# rpm -e FJSVprcnv
```

```
# rpm -e FJSVprweb
```

```
# rpm -e FJSVbsnp8
```

4. CUPSスケジューラを起動します。

【RHEL6以前】

```
# /etc/init.d/cups start
```

```
cupsを起動中: [ OK ]
```

【RHEL7以降】

```
# /usr/bin/systemctl start cups.socket cups.path cups.service
```

5. 本製品のポリシーモジュールがインストールされているか確認します(注)。

```
# /usr/sbin/semodule -l | grep fjsvbsnps
```

```
fjsvbsnps      x.x.x      (xxは任意の数字)      ←インストールされている場合
```

```
#
```

```
# /usr/sbin/semodule -l | grep fjsvbsnps
```

```
#      ←インストールされていない場合
```

ポリシーモジュールがインストールされていた場合は削除します。

```
# /usr/sbin/semodule -r fjsvbsnps
```

(注) ポリシーモジュールは、SELinuxを有効にした環境で使用する場合にインストールされています。

ポリシーモジュールのアンインストールには時間がかかる場合があります。

### 3.1.2 アンインストールの注意事項

- アンインストール時に rpm コマンドからメッセージが出力される場合があります。  
詳細は rpm コマンドのマニュアルを参照してください。  
(例) 「error: package FJSVbsnps is not installed」  
…未インストールパッケージをアンインストールしようとした場合。
- アンインストールを行っても、“/etc/services” ファイルにポート番号定義が残ります。  
“bpp” の定義を削除するには、vi エディタなどを使用して手動で削除してください。
- CD-ROM が自動的にマウントされるとき、“setup” コマンドを実行すると「./setup: /bin/sh: bad interpreter: 許可がありません」のようにエラーが発生する場合があります。その場合は、いったんアンマウントし、手動でマウントし直してください。

---

## 第4章 印刷形態毎のセットアップ

本章では、印刷形態毎固有のセットアップ作業について説明します。  
本章の構成は、以下のとおりです。

- 4.1 インパクトプリンタへの印刷形態
- 4.2 ページプリンタへの印刷形態

## 4.1 インパクトプリンタへの印刷形態

インパクトプリンタへの印刷には、以下の2つの印刷形態があります。

- テキスト印刷
- 「COBOL」を使用した印刷

### 4.1.1 テキスト／COBOL印刷時のセットアップ

テキスト／COBOL印刷時の印刷形態は、図4.1のとおりです。

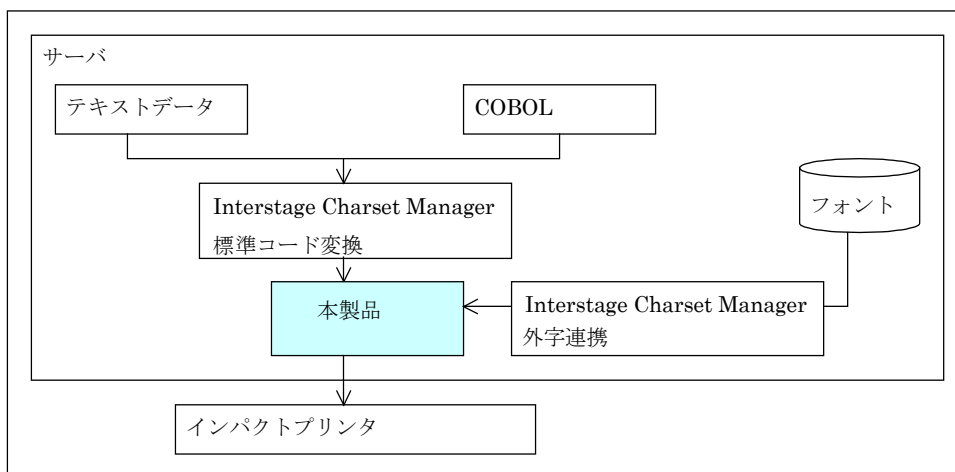


図4.1 インパクトプリンタへのテキスト/COBOL印刷

セットアップ手順は、以下のとおりです。

1. 『Interstage Charset Manager』－『標準コード変換(FSUNiconv)』をインストールします。
2. 『Interstage Charset Manager』－『外字連携(FSUNadj)』をインストールします。
3. 環境ファイルの「JEFCHARCODE（文字コード変換指定）」の設定値変更を検討します。設定値については、「付録B 環境ファイル」を参照してください。

## 4.2 ページプリンタへの印刷形態

ページプリンタへの印刷には、以下の4つの印刷形態があります。

- テキスト印刷
- 「COBOL」を使用した印刷
- 「MeFt」を使用した印刷
- List Works連携印刷（『Interstage List Works』を使用した印刷）

テキスト／COBOL／MeFt印刷およびList Works連携印刷時は、FNPエミュレーションへの印刷が可能です。

### 4.2.1 テキスト／COBOL／MeFt印刷時のセットアップ

テキスト／COBOL／MeFt印刷時のセットアップ手順について説明します。

MeFtの出力するデータがPostScriptである場合は、本製品では印刷できません。

#### 4.2.1.1 FNPエミュレーション

テキスト／COBOL／MeFt印刷時の印刷形態は、図4.2のとおりです。

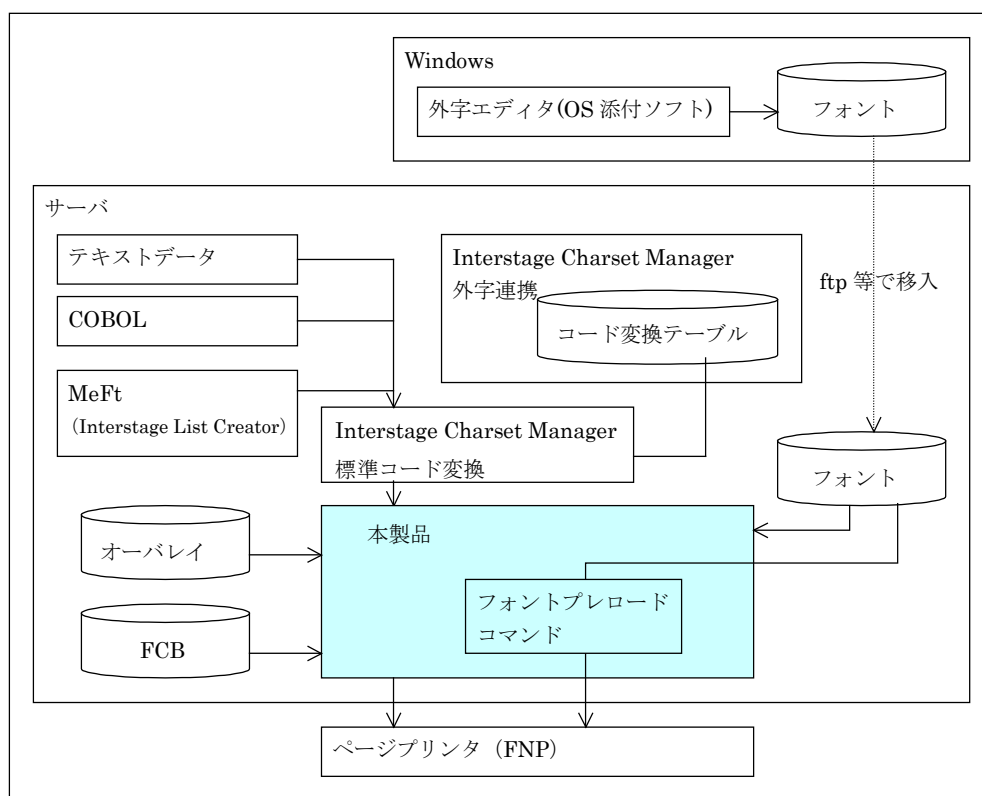


図4.2 ページプリンタへのテキスト/COBOL/MeFt印刷（FNP）

セットアップ手順は、以下のとおりです。

1. 『Interstage Charset Manager』－『標準コード変換(FSUNiconv)』をインストールします。
2. 『Interstage Charset Manager』－『外字連携(FSUNadj)』をインストールします。
3. 『Interstage List Creator』を使用して印刷する場合は、『Interstage List Creator』をインストールします。
4. コード変換テーブルを以下の手順で登録します。

```
# cp /opt/FSUNadj/DATA/usrtbl /opt/FSUNadj/DATA/usrtbl.org
# cp /etc/opt/FJSVbsnps/font/usrtbl /opt/FSUNadj/DATA/usrtbl
# chmod guo+r /opt/FSUNadj/DATA/usrtbl
```

5. 外字を使用する場合、WindowsのOSに添付されている『外字エディタ』を使用して外字を作成し、以下のディレクトリに格納します。

```
/usr/local/lib/FJSVlp/ttf
```

本製品に含まれる「TrueTypeフォントプレロードコマンド」を使用し、プリンタにフォントをプレロードできます。

『外字エディタ』における外字作成方法

［ファイル］メニューより“フォントのリンク”を選びます。

フォントのリンク画面の「外字フォントの種類」で“指定したフォントにリンク”を指定したあと、「フォントの選択」で“MS 明朝”または“MS ゴシック”を指定して作成します。

6. オーバレイを使用する場合、オーバレイファイルを以下のディレクトリに格納します。

```
/usr/local/lib/FJSVlp/kol5
```

7. FCBを使用する場合、FCBファイルを以下のディレクトリに格納します。

```
/usr/local/lib/FJSVlp/fcbe
```

## 4.2.2 List Works連携印刷時のセットアップ

List Works連携印刷（『Interstage List Works』を使用した印刷）時の印刷形態は、図4.3のとおりです。

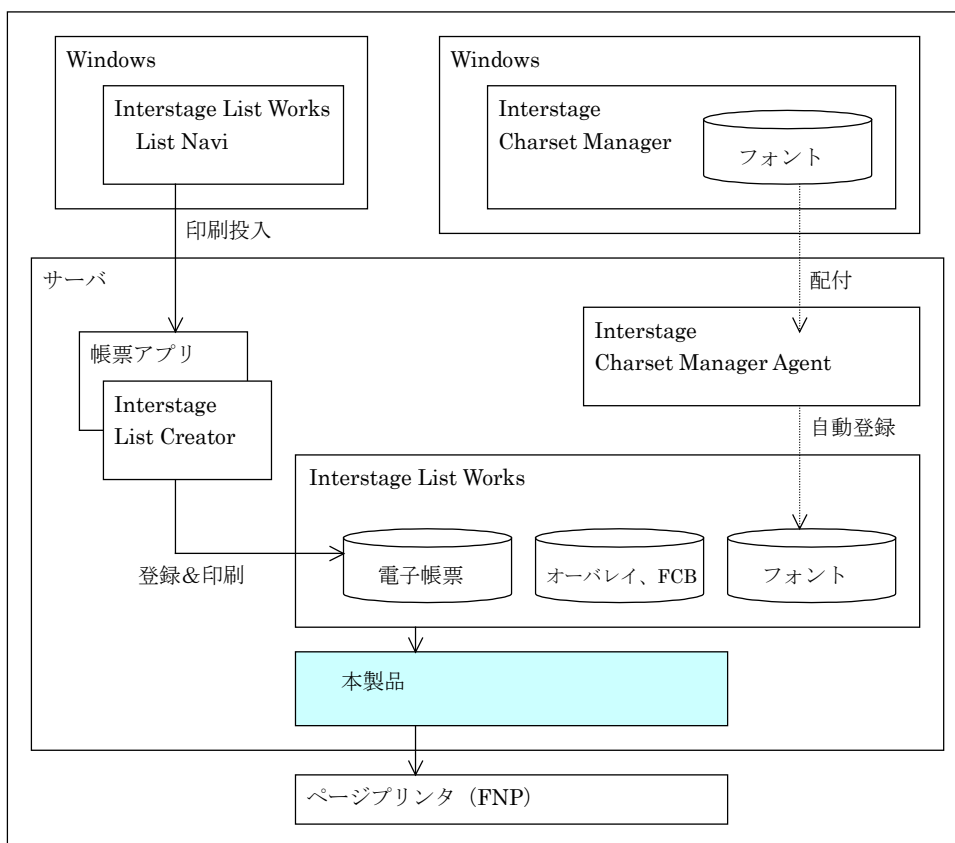


図4.3 ページプリンタへのList Works連携印刷（FNP）

セットアップ手順は、以下のとおりです。

1. 『Interstage List Works』をインストールします。
2. 『Interstage List Creator』をインストールします。
3. 『Interstage Charset Manager Agent』をインストールします。

（注）List Works連携印刷は、RHEL7で本製品（Intel64版）を使用した環境のみでのサポートとなります。



---

## 第5章 プリンタ定義

本章では、本製品のプリンタ定義方法について説明します。  
本章の構成は、以下のとおりです。

- 5.1 プリンタ装置の設定
- 5.2 プリンタ名の定義
- 5.3 デフォルトプリンタの設定
- 5.4 環境ファイル（プリンタ名別固有環境）の設定

## 5.1 プリンタ装置の設定

各プリンタ装置の取扱説明書に従ってプリンタ装置の設定を行ってください。

なお、以下の設定は必ず行ってください。

- ネットワーク上のホストIP
- ネットマスク
- ゲートウェイ
- 論理プリンタ（ページプリンタのみ）

論理プリンタのエミュレーションは、表5.1のいずれかを指定してください。

**表5.1 論理プリンタのエミュレーション**

論理プリンタの エミュレーション	印 刷 内 容
FM	テキスト／COBOL／MeFtを印刷する場合（ページプリンタ）
	List Works連携印刷の場合（ページプリンタ）
66XX	テキスト／COBOLを印刷する場合（インパクトプリンタ）

## 5.2 プリンタ名の定義

本節では、Linuxサーバにおけるプリンタ名の定義方法について説明します。

プリンタ名の定義は、プリンタ定義ツール (pwutil\_setprtコマンド) を使用して行います (注)。  
このツールでは以下のことを行うことができます。

表5.2 プリンタ定義ツールの機能

機能		概要
作成	新規作成	プリンタ名を新規に作成する。
	参照作成	定義されているプリンタ名を使用し、新規にプリンタ名を作成する。
変更		プリンタ名の定義内容を変更する。
表示		プリンタ名の定義内容を表示する。
削除		プリンタ名を削除する。
退避		本製品用に定義されたすべてのプリンタ名の定義情報を、指定されたファイルに退避する。
復元		ファイルに記述されたプリンタ名の定義情報を元に、プリンタ名を作成する。

(注) これまで使用していたsetprtコマンドも使用できます。setprtコマンドについては「付録 C setprtコマンド (旧バージョン互換)」を参照してください。

プリンタ定義ツールは以下のように実行します。なお、ツールのエラーメッセージについては、「【保守編】 4.3 pwutil\_setprt (プリンタ定義) コマンド」を参照してください。

1. スーパ・ユーザでプリンタ定義ツールを実行します。

```
# /opt/FJSVbsnps/utility/pwutil_setprt
```

備考. 本製品の旧版数がインストールされている環境においても、プリンタ定義ツールが利用できます。本製品のCD-ROM媒体をCD-ROM装置にセットし、次のように実行してください。

```
# CD-ROM装置のマウントポイント/PWLKRLXE/Utility/pwutil_setprt
```

2. 以下のメニューが表示されますので、使用する機能を指定します。メッセージの言語はコマンド実行端末の言語環境により、日本語 (ja\_JP.UTF-8) または英語で表示されます。コンソール画面の場合、英語環境で使用してください。
- 各機能選択時の詳細については「5.2.2 プリンタ名の新規作成」～「5.2.8 プリンタ名の復元」を参照してください。

### 【日本語】

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。 (終了[exit])

### 【英語】

[ Setup printer ]

1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])

## 5.2.1 事前準備

プリンタ名の定義を行う場合、事前に次の情報について確認してください。

### (1) プリンタ名

プリンタ名を確認します。

英字で始まる14文字以内の英数字が指定できます。

(注1) “all”、“any”、“none” は使用できません。

(注2) 大文字と小文字は区別されません。

### (2) プリンタのホスト名またはIPアドレス

プリンタ装置に割り振られたホスト名またはIPアドレスを確認します (注)。

ホスト名の場合には、“/etc/hosts” ファイルにプリンタ装置のホスト名を定義するなどして、サーバがプリンタ装置を認識できるようにします。

“ping” コマンドまたは“ping6” コマンドを実行して認識できることを確認します。

```
IPv4の場合
# /bin/ping printer-host-name
# /bin/ping printer-IP-address
IPv6の場合
# /bin/ping6 printer-host-name
```

(注) IPv6の場合、IPアドレスは使用できません。

### (3) プリンタの型名

プリンタの型名を確認します。

「付録A サポートプリンタ」にサポートプリンタの型名が記載されています。

### (4) 論理プリンタ番号を確認

ページプリンタ（単票）の場合、使用する論理プリンタ番号を確認します。

プリンタ装置毎に使用可能な論理プリンタ番号は、表5.3のとおりです。(実際にプリンタ装置で  
使用できる論理プリンタ数は、プリンタ装置のオプション構成により変化する場合があります。)

表5.3 プリンタ型別論理プリンタ数

プリンタ型名	使用可能範囲
VSP4530B、VSP4540B	1 ～ 3
VSP4730B	1 ～ 8

## 5.2.2 プリンタ名の新規作成

プリンタ名を新規に作成します。手順は以下のとおりです。

### 【日本語】

#### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「1. 作成」を指定します。

#### (2) 新規／参照の選択

[ 作成 ]

1. 新規作成
2. 参照作成

実施する項目を選択してください。（中止[q]）

「1. 新規作成」を指定します。

#### (3) プリンタ名の入力

作成するプリンタ名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

入力値           ：

作成するプリンタ名を入力します。

（入力例） PRT1

#### (4) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

注） IPv6の場合はホスト名で入力してください。

入力値           ：

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力します。

（入力例） 192.168.112.38

#### (5) プリンタ装置の型名の入力

プリンタ装置の型名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

入力値           ：

プリンタ装置の型名を入力します。

（入力例） VSP4730B

（注） プリンタ装置の型名に、連帳ページプリンタや、インパクトプリンタの型名を入力した場合は「(7)作成内容の確認」に進みます。

## (6) 論理プリンタ番号の入力

論理プリンタ番号を入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

入力値           :

論理プリンタ番号を入力します。

（入力例） 2

## (7) 作成内容の確認

プリンタ名                   : PRT1  
ホスト名またはIPアドレス : 192.168.112.38  
プリンタ装置の型名         : VSP4730B  
論理プリンタ番号           : 2

上記の内容でプリンタ名を作成します。よろしいですか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

これまで入力した内容が表示されます。「はい[y]」を指定すると、その内容でプリンタ名の定義を作成します。

## (8) 完了の確認

プリンタ名の定義が完了しました。

[Enter]を押してください。

プリンタ名の定義が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

## (9) 終了

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

各画面で「戻る[r]」を指定すると（指定できない画面もあります）、1つ前の画面に戻ります。

また、「プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面」以降で「戻る[r]」を指定したときには、前回入力した値が表示されます。設定値を変更する場合は新しい値を入力してください。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下してください。

（例）プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面で「戻る[r]」を指定した時

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

注）IPv6の場合はホスト名で入力してください。

入力値           : r

作成するプリンタ名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

現在の設定値 : PRT1     ← 前回入力した値

入力値           :

なお、プリンタ名の入力画面において「戻る[r]」を指定した場合、次のメッセージが表示されます。

これまで入力した値が無効になります。よろしいですか？（はい[y]、いいえ[n]）

「はい[y]」を指定すると、1つ前の「新規／参照の選択画面」に戻りますが、それまで入力した値はすべて無効になります。



## 【英語】

## (1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]  
1. Create  
2. Change  
3. Display  
4. Delete  
5. Save  
6. Restore
```

Please select function. (end[exit])

「1. Create」を指定します。

## (2) 新規／参照の選択

```
[ Create ]  
1. New  
2. Reference
```

Please select function. (quit[q])

「1. New」を指定します。

## (3) プリンタ名の入力

```
Please input a printer name to create. (return[r],quit[q])  
Input value   :
```

作成するプリンタ名を入力します。

(入力例) PRT1

## (4) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力

```
Please input the host name or IP address of printer. (return[r],quit[q])  
Note) Please input the host name in the case of the IPv6.  
Input value   :
```

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力します。

(入力例) 192.168.112.38

## (5) プリンタ装置の型名の入力

```
Please input a printer type. (return[r],quit[q])  
Input value   :
```

プリンタ装置の型名を入力します。

(入力例) VSP4730B

(注) プリンタ装置の型名に、連帳ページプリンタや、インパクトプリンタの型名を入力した場合は「(7)作成内容の確認」に進みます。

## (6) 論理プリンタ番号の入力

```
Please input a printer number. (return[r],quit[q])  
Input value   :
```

論理プリンタ番号を入力します。

(入力例) 2

(7) 作成内容の確認

```
Printer Name           : PRT1
Host Name or IP Address : 192.168.112.38
Printer Type           : VSP4730B
Printer Number         : 2

May I create it by this content? (yes[y],return[r],quit[q])
```

これまで入力した内容が表示されます。「yes[y]」を指定すると、その内容でプリンタ名の定義を作成します。

(8) 完了の確認

```
Creation of the printer was completed.
Please press [Enter].
```

プリンタ名の定義が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

(9) 終了

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

各画面で「return[r]」を指定すると（指定できない画面もあります）、1つ前の画面に戻ります。

また、「プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面」以降で「return[r]」を指定したときには、前回入力した値が表示されます。設定値を変更する場合は新しい値を入力してください。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下してください。

(例) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面で「return[r]」を指定した時

```
Please input the host name or IP address of printer. (return[r],quit[q])
Note) Please input the host name in the case of the IPv6.
Input value   : r

Please input a printer name to create. (return[r],quit[q],no change[Enter])
Present value : PRT1    ← 前回入力した値
Input value   :
```

なお、プリンタ名の入力画面において「return[r]」を指定した場合、次のメッセージが表示されます。

```
May I invalidate a current input value? (yes[y],no[n])
```

「yes[y]」を指定すると、1つ前の「新規／参照の選択画面」に戻りますが、それまで入力した値はすべて無効になります。

### 5.2.3 プリンタ名の参照作成

すでに定義されているプリンタ名を参照して、新規にプリンタ名を作成します。手順は以下のとおりです。

#### 【日本語】

##### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「1. 作成」を指定します。

##### (2) 新規／参照の選択

[ 作成 ]

1. 新規作成
2. 参照作成

実施する項目を選択してください。（中止[q]）

「2. 参照作成」を指定します。

##### (3) 参照するプリンタ名の選択

[ 定義されているプリンタ名 ]

PRT1, PRT2, PRT3                      ← 定義されているプリンタ名

参照するプリンタ名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、参照するプリンタ名を入力します。

（入力例）PRT1

##### (4) 参照するプリンタ名の確認

プリンタ名                                      : PRT1  
ホスト名またはIPアドレス                : 192.168.112.38  
プリンタ装置の型名                         : VSP4730B  
論理プリンタ番号                           : 2

上記のプリンタ名の定義内容を参照しますか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

参照するプリンタ名の定義内容が表示されます。その内容で良ければ「はい[y]」を指定します。

(5) プリンタ名の入力

作成するプリンタ名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]）

入力値 :

作成するプリンタ名を入力します。

（入力例） PRT4

(6) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

注）IPv6の場合はホスト名で入力してください。

現在の設定値 : 192.168.112.38 ← 参照するプリンタ名での設定値

入力値 :

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力します。

参照するプリンタ名での設定値が表示されます。その内容のまま設定する場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(7) プリンタ装置の型名の入力

プリンタ装置の型名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

現在の設定値 : VSP4730B ← 参照するプリンタ名での設定値

入力値 :

プリンタ装置の型名を入力します。

参照するプリンタ名での設定値が表示されます。その内容のまま設定する場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

（注） プリンタ装置の型名に、連帳ページプリンタや、インパクトプリンタの型名を入力した場合は「(9) 作成内容の確認」に進みます。

(8) 論理プリンタ番号の入力

論理プリンタ番号を入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

現在の設定値 : 2 ← 参照するプリンタ名での設定値

入力値 :

論理プリンタ番号を入力します。

参照するプリンタ名での設定値が表示されます。その内容のまま設定する場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(9) 作成内容の確認

プリンタ名 : PRT4

ホスト名またはIPアドレス : 192.168.112.50

プリンタ装置の型名 : VSP4730B

論理プリンタ番号 : 3

上記の内容でプリンタ名を作成します。よろしいですか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

これまで入力した内容が表示されます。「はい[y]」を指定すると、その内容でプリンタ名の定義を作成します。

(10) 完了の確認

プリンタ名の定義が完了しました。

[Enter]を押してください。

プリンタ名の定義が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

## (11) 終了

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

## 補足.

各画面で「戻る[r]」を指定すると（指定できない画面もあります）、1つ前の画面に戻ります。

また、「プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面」以降で「戻る[r]」を指定したときには、前回入力した値（注）が表示されます。設定値を変更する場合は新しい値を入力し、変更しない場合は[Enter]キーのみを押下します。

（例）プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面で「戻る[r]」を指定した時

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

注）IPv6の場合はホスト名で入力してください。

現在の設定値：192.168.112.38

入力値：r

作成するプリンタ名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

現在の設定値：PRT4 ← 前回入力した値

入力値：

なお、プリンタ名の入力画面において「戻る[r]」を指定した場合、次のメッセージが表示されます。

これまで入力した値が無効になります。よろしいですか？（はい[y]、いいえ[n]）

「はい[y]」を指定すると、1つ前の「参照するプリンタ名の確認画面」に戻りますが、それまで入力した値はすべて無効になります。

（注）値を入力せず、[Enter]キーのみを押下していた場合には、参照プリンタ名の値が表示されます。

【英語】

(1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore
```

Please select function. (end[exit])

「1. Create」を指定します。

(2) 新規／参照の選択

```
[ Create ]
1. New
2. Reference
```

Please select function. (quit[q])

「2. Reference」を指定します。

(3) 参照するプリンタ名の選択

```
[ Already setup printer ]
PRT1, PRT2, PRT3          ← 定義されているプリンタ名
```

Please input a printer to reference. (return[r],quit[q])

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、参照するプリンタ名を入力します。

(入力例) PRT1

(4) 参照するプリンタ名の確認

```
Printer Name           : PRT1
Host Name or IP Address : 192.168.112.38
Printer Type           : VSP4730B
Printer Number         : 2
```

Is referred to this content? (yes[y],return[r],quit[q])

参照するプリンタ名の定義内容が表示されます。その内容で良ければ「yes[y]」を指定します。

(5) プリンタ名の入力

Please input a printer name to create. (return[r],quit[q])

Input value :

作成するプリンタ名を入力します。

(入力例) PRT4

## (6) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力

Please input the host name or IP address of printer. (return[r],quit[q],no change[Enter])

Note) Please input the host name in the case of the IPv6.

Present value : 192.168.112.38 ← 参照するプリンタ名での設定値

Input value :

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力します。

参照するプリンタ名での設定値が表示されます。その内容のまま設定する場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

## (7) プリンタ装置の型名の入力

Please input a printer type. (return[r],quit[q],no change[Enter])

Present value : VSP4730B

Input value :

プリンタ装置の型名を入力します。

参照するプリンタ名での設定値が表示されます。その内容のまま設定する場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(注) プリンタ装置の型名に、連帳ページプリンタや、インパクトプリンタの型名を入力した場合は「(9) 作成内容の確認」に進みます。

## (8) 論理プリンタ番号の入力

Please input a printer number. (return[r],quit[q],no change[Enter])

Present value : 2

Input value :

論理プリンタ番号を入力します。

参照するプリンタ名での設定値が表示されます。その内容のまま設定する場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

## (9) 作成内容の確認

Printer Name : PRT4  
Host Name or IP Address : 192.168.112.50  
Printer Type : VSP4730B  
Printer Number : 3

May I create it by this content? (yes[y],return[r],quit[q])

これまで入力した内容が表示されます。内容に間違いがなければ「yes[y]」を指定します。

## (10) 完了の確認

Creation of the printer was completed.  
Please press [Enter].

プリンタ名の定義が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

(11) 終了

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

各画面で「return[r]」を指定すると（指定できない画面もあります）、1つ前の画面に戻ります。

また、「プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面」以降で「return[r]」を指定したときには、前回入力した値（注）が表示されます。設定値を変更する場合は新しい値を入力し、変更しない場合は[Enter]キーのみを押下します。

（例）プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力画面で「return[r]」を指定した時

```
Please input the host name or IP address of printer. (return[r],quit[q],no
change[Enter])
Note) Please input the host name in the case of the IPv6.
Present value : 192.168.112.38
Input value   : r

Please input a printer name to create. (return[r],quit[q],no change[Enter])
Present value : PRT4                ← 前回入力した値
Input value   :
```

なお、プリンタ名の入力画面において「return[r]」を指定した場合、次のメッセージが表示されます。

```
May I invalidate a current input value? (yes[y],no[n])
```

「yes[y]」を指定すると、1つ前の「参照するプリンタ名の確認画面」に戻りますが、それまで入力した値はすべて無効になります。

（注）値を入力せず、[Enter]キーのみを押下していた場合には、参照プリンタ名の値が表示されます。



## 5.2.4 プリンタ名の変更

プリンタ名の定義内容を変更します。手順は以下のとおりです。

### 【日本語】

#### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「2. 変更」を指定します。

#### (2) 変更するプリンタ名の選択

[ 定義されているプリンタ名 ]

PRT1, PRT2, PRT3                      ← 定義されているプリンタ名

変更するプリンタ名を入力してください。（中止[q]）

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、定義内容を変更するプリンタ名を入力します。

（入力例）PRT1

#### (3) 変更するプリンタ名の確認

プリンタ名                      : PRT1  
ホスト名またはIPアドレス    : 192.168.112.38  
プリンタ装置の型名            : VSP4730B  
論理プリンタ番号              : 2

上記のプリンタ名の定義内容を変更しますか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

変更するプリンタ名の定義内容が表示されます。その内容で良ければ「はい[y]」を指定します。

#### (4) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）

注）IPv6の場合はホスト名で入力してください。

現在の設定値    : 192.168.112.38              ← 現在の設定値  
入力値            :

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力します。

現在の設定値が表示されます。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(5) プリンタ装置の型名の入力

プリンタ装置の型名を入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）	
現在の設定値 : VSP4730B	← 現在の設定値
入力値 :	

プリンタ装置の型名を入力します。

現在の設定値が表示されます。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(注) プリンタ装置の型名に、連帳ページプリンタや、インパクトプリンタの型名を入力した場合は「(7)変更内容の確認」に進みます。

(6) 論理プリンタ番号の入力

論理プリンタ番号を入力してください。（戻る[r]、中止[q]、変更なし[Enter]）	
現在の設定値 : 2	← 現在の設定値
入力値 :	

論理プリンタ番号を入力します。

現在の設定値が表示されます。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(7) 変更内容の確認

プリンタ名	: PRT1
ホスト名またはIPアドレス	: 192.168.112.50
プリンタ装置の型名	: VSP4730B
論理プリンタ番号	: 3
上記の内容でプリンタ名を作成します。よろしいですか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）	

これまで入力した内容が表示されます。「はい[y]」を指定すると、その内容に変更します。

(8) 完了の確認

プリンタ名の定義が完了しました。 [Enter]を押してください。
--------------------------------------

プリンタ名の定義の変更が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

(9) 終了

[ プリンタ名の定義 ]
1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元
実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

## 【英語】

## (1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

「2. Change」を指定します。

## (2) 変更するプリンタ名の選択

```
[ Already setup printer ]
PRT1, PRT2, PRT3          ← 定義されているプリンタ名

Please input a printer to change. (quit[q])
```

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、定義内容を変更するプリンタ名を入力します。

(入力例) PRT1

## (3) 変更するプリンタ名の確認

```
Printer Name       : PRT1
Host Name or IP Address : 192.168.112.38
Printer Type       : VSP4730B
Printer Number     : 2

Is changed to this content? (yes[y],return[r],quit[q])
```

変更するプリンタ名の定義内容が表示されます。その内容で良ければ「yes[y]」を指定します。

## (4) プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスの入力

```
Please input the host name or IP address of printer. (return[r],quit[q],no
change[Enter])
Note) Please input the host name in the case of the IPv6.
Present value : 192.168.112.38    ← 現在の設定値
Input value   :
```

プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを入力します。

現在の設定値が表示されます。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(5) プリンタ装置の型名の入力

```
Please input a printer type. (return[r],quit[q],no change[Enter])
Present value : VSP4730B          ← 現在の設定値
Input value  :
```

プリンタ装置の型名を入力します。

現在の設定値が表示されます。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(注) プリンタ装置の型名に、連帳ページプリンタや、インパクトプリンタの型名を入力した場合は「(7)変更内容の確認」に進みます。

(6) 論理プリンタ番号の入力

```
Please input a printer number. (return[r],quit[q],no change[Enter])
Present value : 2                  ← 現在の設定値
Input value  :
```

論理プリンタ番号を入力します。

現在の設定値が表示されます。変更しない場合は[Enter]キーのみを押下し、変更する場合は新しい値を入力します。

(7) 変更内容の確認

```
Printer Name           : PRT1
Host Name or IP Address : 192.168.112.50
Printer Type           : VSP4730B
Printer Number         : 3

May I create it by this content? (yes[y],return[r],quit[q])
```

これまで入力した内容が表示されます。「yes[y]」を指定すると、その内容に変更します。

(8) 完了の確認

```
Creation of the printer was completed.
Please press [Enter].
```

プリンタ名の定義の変更が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

(9) 終了

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

## 5.2.5 プリンタ名の表示

プリンタ名の定義内容を表示します。手順は以下のとおりです。

### 【日本語】

#### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「3. 表示」を指定します。

#### (2) 表示するプリンタ名の選択

[ 定義されているプリンタ名 ]

PRT1, PRT2, PRT3                      ← 定義されているプリンタ名

表示するプリンタ名を入力してください。（中止[q]）

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、定義内容を表示するプリンタ名を入力します。

（入力例）PRT1

#### (3) プリンタ名の定義内容の表示

プリンタ名                                      : PRT1  
ホスト名またはIPアドレス                : 192.168.112.38  
プリンタ装置の型名                         : VSP4730B  
論理プリンタ番号                           : 2

[Enter]を押してください。

(2)で入力したプリンタ名の定義内容が表示されます。定義内容を確認した後は[Enter]キーを押下します。

#### (4) 終了

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

【英語】

(1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

「3. Display」を指定します。

(2) 表示するプリンタ名の選択

```
[ Already setup printer ]
PRT1, PRT2, PRT3          ← 定義されているプリンタ名

Please input a printer to display. (quit[q])
```

定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、定義内容を表示するプリンタ名を入力します。

(入力例) PRT1

(3) プリンタ名の定義内容の表示

```
Printer Name       : PRT1
Host Name or IP Address : 192.168.112.38
Printer Type       : VSP4730B
Printer Number     : 2

Please press [Enter].
```

(2)で入力したプリンタ名の定義内容が表示されます。定義内容を確認した後は[Enter]キーを押下します。

(4) 終了

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

## 5.2.6 プリンタ名の削除

プリンタ名の定義を削除します。手順は以下のとおりです。

### 【日本語】

#### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「4. 削除」を指定します。

#### (2) 削除するプリンタ名の選択

[ 定義されているプリンタ名 ]

PRT1, PRT2, PRT3                      ← 定義されているプリンタ名

削除するプリンタ名（“, ”区切りで複数指定可）を入力してください。（すべて[a11]、中止[q]）

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、削除するプリンタ名を入力します。“,”（カンマ）で区切って複数入力することが可能です。また、“a11”と入力すると、すべてのプリンタ名が削除されます。

（入力例1）PRT1                      “PRT1”を削除する場合

（入力例2）PRT1, PRT3              “PRT1”および“PRT3”を削除する場合

（入力例3）a11                        すべてのプリンタ名を削除する場合（注）

（注）本製品用に定義したプリンタ名のみが削除対象となります。

#### (3) 削除するプリンタ名の確認

[ 削除するプリンタ名 ]

PRT1, PRT3                              ← 削除するプリンタ名

上記のプリンタ名を削除します。よろしいですか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

削除するプリンタ名が表示されます。削除して良ければ「はい[y]」を指定します。

(4) 完了の確認

PRT1	成功
PRT3	成功

プリンタ名の削除が完了しました。  
[Enter]を押してください。

プリンタ名の定義の削除が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

プリンタ名の定義の削除が失敗した場合には、後述の「補足.」を参照してください。

(5) 終了

[ プリンタ名の定義 ]	
1.	作成
2.	変更
3.	表示
4.	削除
5.	退避
6.	復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

プリンタ名の定義の削除に失敗した場合、次のように表示されます。

(例1) 削除するプリンタ名が1つの場合

PRT1	失敗 ( <u>lpadmin: Unable to connect to server: Connection refused</u> )
	↑
プリンタ名の削除に失敗しました。	エラー詳細 (注)

[Enter]を押してください。

複数のプリンタ名を削除している場合、削除に失敗した時点で下記のメッセージが表示されます。削除処理を続行する場合は「y」または[Enter]を入力し、削除処理を中止する場合は「n」を入力します。

(例2) 削除するプリンタ名が複数の場合

PRT1	成功
PRT3	失敗 ( lpadmin: Unable to connect to server: Connection refused )

プリンタ名の削除に失敗しました。処理を続行しますか？ (はい[y or Enter]、いいえ[n])

(注) エラー詳細、および対処方法については、「【保守編】4.3 pwutil\_setprt (プリンタ定義) コマンド」を参照してください。



## 【英語】

## (1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

「4. Delete」を指定します。

## (2) 削除するプリンタ名の選択

```
[ Already setup printer ]
PRT1, PRT2, PRT3          ← 定義されているプリンタ名

Please input a printer to delete (ex. printer1,printer2,...). (all[all],quit[q])
```

本製品用に定義されているプリンタ名の一覧が表示されますので、削除するプリンタ名を入力します。“,”（カンマ）で区切って複数入力することが可能です。また、“all”と入力すると、すべてのプリンタ名が削除されます。

（入力例 1）PRT1                    “PRT1”を削除する場合

（入力例 2）PRT1, PRT3            “PRT1”および“PRT3”を削除する場合

（入力例 3）all                    すべてのプリンタ名を削除する場合（注）

（注）本製品用に定義したプリンタ名のみが削除対象となります。

## (3) 削除するプリンタ名の確認

```
[ Delete printer ]
PRT1, PRT3                ← 削除するプリンタ名

May I delete it? (yes[y],return[r],quit[q])
```

削除するプリンタ名が表示されます。削除して良ければ「yes[y]」を指定します。

## (4) 完了の確認

```
PRT1          OK
PRT3          OK

Deletion of the printer was completed.
Please press [Enter].
```

プリンタ名の定義の削除が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

プリンタ名の定義の削除が失敗した場合には、後述の「補足.」を参照してください。

(5) 終了

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

プリンタ名の定義の削除に失敗した場合、次のように表示されます。

(例1) 削除するプリンタ名が1つの場合

```
PRT1          NG ( lpadmin: Unable to connect to server: Connection refused )
                                     ↑
Deleting the printer failed.         エラー詳細 (注)
Please press [Enter].
```

複数のプリンタ名を削除している場合、削除に失敗した時点で下記のメッセージが表示されます。削除処理を続行する場合は「y」または[Enter]を入力し、削除処理を中止する場合は「n」を入力します。

(例2) 削除するプリンタ名が複数の場合

```
PRT1          OK
PRT3          NG ( lpadmin: Unable to connect to server: Connection refused )
Deleting the printer failed. Is processing continued? (yes[y or Enter],no[n])
```

(注) エラー詳細、および対処方法については、「【保守編】4.3 pwutil\_setprt (プリンタ定義) コマンド」を参照してください。

## 5.2.7 プリンタ名の退避

本製品用に定義されたすべてのプリンタ名の定義情報を、指定されたファイルに退避します。手順は以下のとおりです。

### 【日本語】

#### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「5. 退避」を指定します。

#### (2) 退避先ファイル名の入力

プリンタ名の定義情報を退避するファイル名（フルパス）を入力してください。（中止[q]）

プリンタ名の定義情報を退避するファイル名をフルパスで入力します。

（入力例） /work/printer\_name\_define

なお、退避形式については、「5.2.7.1 プリンタ名定義情報ファイル」を参照してください。

#### (3) 退避するプリンタ名の確認

[ 退避するプリンタ名 ]

PRT1, PRT2, PRT3

上記のプリンタ名を退避します。よろしいですか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

定義情報を退避するプリンタ名の一覧を表示します。「はい[y]」を指定すると退避します。

#### (4) 完了の確認

プリンタ名の定義情報を退避中...

プリンタ名の退避が完了しました。

[Enter]を押してください。

プリンタ名の定義の退避が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

プリンタ名の定義の退避が失敗した場合については、後述の「補足.」を参照してください。

(5) 終了

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

プリンタ名の定義の退避に失敗した場合、次のように表示されます。

(例)

プリンタの退避に失敗しました。（ PRT1 : プリンタ名の定義情報の取得に失敗 ）

[Enter]を押してください。

↑

退避に失敗したプリンタ名

↑

エラー詳細（注）

（注）エラー詳細、および対処方法については、「【保守編】 4.3 pwutil\_setprt（プリンタ定義） コマンド」を参照してください。

## 【英語】

## (1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

「5. Save」を指定します。

## (2) 退避先ファイル名の入力

```
Please input a file name (full path) which saves printer setup information.
(quit[q])
```

プリンタ名の定義情報を退避するファイル名をフルパスで入力します。

(入力例) /work/printer\_name\_define

なお、退避形式については、「5.2.7.1 プリンタ名定義情報ファイル」を参照してください。

## (3) 退避するプリンタ名の確認

```
[ Save printer ]
PRT1, PRT2, PRT3

May I save it? (yes[y],return[r],quit[q])
```

定義情報を退避するプリンタ名の一覧を表示します。「yes[y]」を指定すると退避します。

## (4) 完了の確認

```
Printer setup information is saving...

Save of the printer was completed.
Please press [Enter].
```

プリンタ名の定義の退避が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

プリンタ名の定義の退避が失敗した場合については、後述の「補足.」を参照してください。

(5) 終了

```
[ Setup printer ]
```

1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

```
Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

補足.

プリンタ名の定義の退避に失敗した場合、次のように表示されます。

(例)

```
Saving the printer failed. ( PRT1 : Acquiring the printer setup information failed )
```

```
Please press [Enter].
```

↑  
退避に失敗したプリンタ名

↑  
エラー詳細 (注)

(注) エラー詳細、および対処方法については、「【保守編】 4.3 pwutil\_setprt (プリンタ定義) コマンド」を参照してください。

### 5.2.7.1 プリンタ名定義情報ファイル

プリンタ名定義情報ファイルは、プリンタ名の定義を退避することによって作成されるファイルで、以下のような形式となります。

プリンタ名の定義の復元では、このファイルを元にしてプリンタ名の定義を作成します(注)。

(注) プリンタ名定義情報ファイルは、プリンタ定義ツールの「退避」機能を使用せず、viエディタ等を使用して直接作成することも可能です。その場合、以下に記載したファイル属性、および記述形式のとおり作成してください。

#### (1) 属性

ファイル属性は以下のとおりです。

```
アクセス権      : 644
所有者          : root
グループ       : root
```

#### (2) 記述形式

プリンタ名定義情報ファイルの例を以下に示します。

(例)

[Printer Name]	[Host Name]	[Printer Type]	[Printer Number]	[Emulation]	[Real-Printer Name]
PRT1	192.168.112.38	VSP4730B	2	FMBPPOUT	- ← 単票ページプリンタ
PRT2	192.168.112.62	PS5230	-	FMBPPOUT	- ← 連帳ページプリンタ
PRT3	192.168.112.61	VSP3710B	-	BPPOUT	- ← インパクトプリンタ

1行目はヘッダで、固定の文字列です。

2行目以降がプリンタ名の定義情報です。1つのプリンタ名に対して、表5.4に記載された6つの情報がカンマ区切りで1行に記述されます。

表5.4 プリンタ名定義情報の内容

項目 番号	項目	内容
1	Printer Name	プリンタ名を示します。
2	Host Name	プリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを示します。 IPv6の場合はホスト名である必要があります (IPアドレスを直接記述することは出来ません)。
3	Printer Type	プリンタ装置の型名を示します。
4	Printer Number	プリンタ装置の論理プリンタ番号を示します。 単票ページプリンタ以外の場合は“-”となります。
5	Emulation	プリンタ装置のエミュレーションを示します。 FNPエミュレーションの場合は“FMBPPOUT”、66XXエミュレーションの場合は“BPPOUT”となります。
6	Real-Printer Name	“-” 固定です。

## 5.2.8 プリンタ名の復元

プリンタ名定義情報ファイル（「5.2.7.1 プリンタ名定義情報ファイル」を参照）より、プリンタ名を作成します。手順は以下のとおりです。

### 【日本語】

#### (1) 機能の選択

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

「6. 復元」を指定します。

#### (2) プリンタ名定義情報ファイル名の入力

プリンタ名の定義情報が格納されているファイル名（フルパス）を入力してください。  
（中止[q]）

プリンタ名の定義情報が格納されているファイル名をフルパスで入力します。

（入力例） /work/printer\_name\_define

なお、ファイルの形式については、「5.2.7.1 プリンタ名定義情報ファイル」を参照してください。

#### (3) 復元するプリンタ名の選択

[ 格納されているプリンタ名 ]

PRT1, PRT2, PRT3

復元するプリンタ名（“,”区切りで複数指定可）を入力してください。（すべて[a]、戻る[r]、中止[q]）

指定したファイルに記述されているプリンタ名の一覧を表示しますので、復元するプリンタ名を入力します。“,”（カンマ）で区切って複数入力することが可能です。また、“all”と入力すると、すべてのプリンタ名が復元されます。

（入力例1） PRT1                      “PRT1”を復元する場合

（入力例2） PRT1, PRT3              “PRT1”および“PRT3”を復元する場合

（入力例3） all                        すべてのプリンタ名を復元する場合

#### (4) 復元するプリンタ名の確認

[ 復元するプリンタ名 ]

PRT1, PRT3

上記のプリンタ名を復元します。よろしいですか？（はい[y]、戻る[r]、中止[q]）

復元するプリンタ名が表示されます。「はい[y]」を指定すると復元します。



## (5) 完了の確認

```
PRT1      成功
PRT3      成功
```

プリンタ名の復元が完了しました。  
[Enter]を押してください。

プリンタ名の定義の復元が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

プリンタ名の定義の復元に失敗した場合には、後述の「補足.」を参照してください。

## (6) 終了

[ プリンタ名の定義 ]

1. 作成
2. 変更
3. 表示
4. 削除
5. 退避
6. 復元

実施する項目を選択してください。（終了[exit]）

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

## 補足.

プリンタ名の定義の復元に失敗した場合、次のように表示されます。

## (例1) 復元するプリンタ名が1つの場合

```
PRT1      失敗（ プリンタ名の定義情報の取得に失敗 ） （注）
```

プリンタ名の復元に失敗しました。  
[Enter]を押してください。

複数のプリンタ名を復元している場合、復元に失敗した時点で下記のメッセージが表示されます。復元処理を続行する場合は「y」または[Enter]を入力し、復元処理を中止する場合は「n」を入力します。

## (例2) 復元するプリンタ名が複数の場合

```
PRT1      成功
PRT2      失敗（ プリンタ名の定義情報の取得に失敗 ） （注）
プリンタ名の復元に失敗しました。処理を続行しますか？（はい[y or Enter]、いいえ[n]）
```

（注）エラー詳細、および対処方法については、「【保守編】4.3 pwutil\_setprt（プリンタ定義）コマンド」を参照してください。

### 【英語】

#### (1) 機能の選択

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

「6. Restore」を指定します。

#### (2) プリンタ名定義情報ファイル名の入力

```
Please input a file name (full path) which saved printer setup information.
(quit[q])
```

プリンタ名の定義情報が格納されているファイル名をフルパスで入力します。

(入力例) /work/printer\_name\_define

なお、ファイルの形式については、「5.2.7.1 プリンタ名定義情報ファイル」を参照してください。

#### (3) 復元するプリンタ名の選択

```
[ Already save printer ]
PRT1, PRT2, PRT3

Please input a printer to restore (ex. printer1,printer2,...). (all[all],return
[r],quit[q])
```

指定したファイルに記述されているプリンタ名の一覧を表示しますので、復元するプリンタ名を入力します。“,”(カンマ)で区切って複数入力することが可能です。また、“all”と入力すると、すべてのプリンタ名が復元されます。

(入力例1) PRT1 “PRT1”を復元する場合

(入力例2) PRT1, PRT3 “PRT1”および“PRT3”を復元する場合

(入力例3) all すべてのプリンタ名を復元する場合

#### (4) 復元するプリンタ名の確認

```
[ Restore printer ]
PRT1, PRT3

May I restore it? (yes[y],return[r],quit[q])
```

復元するプリンタ名が表示されます。「yes[y]」を指定すると復元します。

## (5) 完了の確認

```
PRT1      OK
PRT3      OK

Restoration of the printer was completed.
Please press [Enter].
```

プリンタ名の定義の復元が正常に終了した場合、上記のメッセージが表示されますので、[Enter]キーを押下します。

プリンタ名の定義の復元に失敗した場合には、後述の「補足.」を参照してください。

## (6) 終了

```
[ Setup printer ]
1. Create
2. Change
3. Display
4. Delete
5. Save
6. Restore

Please select function. (end[exit])
```

メニューに戻ります。終了する場合は「exit」を入力します。

## 補足.

プリンタ名の定義の復元に失敗した場合、次のように表示されます。

## (例1) 復元するプリンタ名が1つの場合

```
PRT1      NG ( Acquiring the printer setup information failed )   (注)

Restoring the printer failed.
Please press [Enter].
```

複数のプリンタ名を復元している場合、復元に失敗した時点で下記のメッセージが表示されます。復元処理を続行する場合は「y」または[Enter]を入力し、復元処理を中止する場合は「n」を入力します。

## (例2) 復元するプリンタ名が複数の場合

```
PRT1      OK
PRT3      NG ( Acquiring the printer setup information failed )   (注)
Restoring the printer failed. Is processing continued? (yes[y or Enter],no[n])
```

(注) エラー詳細、および対処方法については、「【保守編】4.3 pwutil\_setprt (プリンタ定義) コマンド」を参照してください。

## 5.2.9 プリンタ名の定義における注意事項

プリンタ名の定義における注意事項を以下に示します。

- プリンタ名の定義を変更する場合は、変更するプリンタ名に印刷要求が存在しないことを確認して実施してください。印刷要求が存在する状態で変更した場合、その印刷要求の印刷は保証されません。
- 復元時、復元するプリンタ名と同名のプリンタ名が定義されていた場合は、そのプリンタ名の定義は上書きされます。
- 復元直後のプリンタ名は、enable（起動）状態、および、accept（ジョブの受付可能）状態となります。
- プリンタ名定義情報ファイルに、同名のプリンタ名が複数記述されていた場合、後に記述されている方が有効になります。

## 5.3 デフォルトプリンタの設定

デフォルトプリンタの設定は、以下の方法で行います。

```
# /usr/sbin/lpadmin -d プリンタ名
```

または

```
# /usr/bin/lpoptions -d プリンタ名
```

“lpoptions” コマンドで設定したデフォルトプリンタは、“lpadmin” コマンドで設定したデフォルトプリンタよりも優先度は高くなります。

## 5.4 環境ファイル（プリンタ名別固有環境）の設定

環境ファイルは運用時の動作環境を設定するファイルです。本製品では環境ファイルの各項目を変更することで、さまざまな印刷属性を指定することができます。環境ファイルのプリンタ名別固有環境域に設定するとプリンタ固有の設定が可能です。通常は変更する必要はありませんが、必要に応じて変更してください。

変更方法は、viコマンド等のテキストエディタを使用します。ファイルの格納先は、以下のとおりです。

/etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv

各項目については、「付録B 環境ファイル」を参照してください。

---

## 付録A サポートプリンタ

本製品でサポートするプリンタ装置について説明します。  
構成は、以下のとおりです。

### A.1 サポートプリンタ

## A.1 サポートプリンタ

『PrintWalker/LXE』がサポートしているプリンタ装置を付表A.1に示します。  
 なお、プリンタ装置の仕様については、各プリンタ装置の取扱説明書を参照してください。

付表A.1 『PrintWalker/LXE』サポートプリンタ装置一覧

機 器 名			プリンタタイプ	
			型名	旧型名
インパクトプリンタ	シリアル	連帳／単票	VSP2750B	VSP2740B
	多目的	連帳／単票	VSP2851B	——
			VSP2910H	——
	ライン	連帳	VSP3601A	——
			VSP3710B	——
			VSP3802B	——
ページプリンタ		単票	VSP4530B	——
			VSP4540B	VSP4730B
		連帳	PS5110B (注)	——
			PS5230C (注)	PS5230B (注)
			PS5600C (注)	PS5600B (注)

(注) プリンタ名の定義を行う際には、末尾の英字を除いた型名を使用してください。  
 プリンタ名の定義については、「5.2 プリンタ名の定義」を参照してください。



---

## 付録B 環境ファイル

本製品で使用する環境ファイルについて説明します。  
構成は、以下のとおりです。

### B.1 環境ファイル

## B.1 環境ファイル

環境ファイルは運用時の動作環境を設定するファイルです。本製品では環境ファイルの各項目を変更することで、さまざまな印刷属性を指定することができます。通常は変更する必要はありませんが、必要に応じて変更してください。

以下に、環境ファイルの変更方法について説明します。

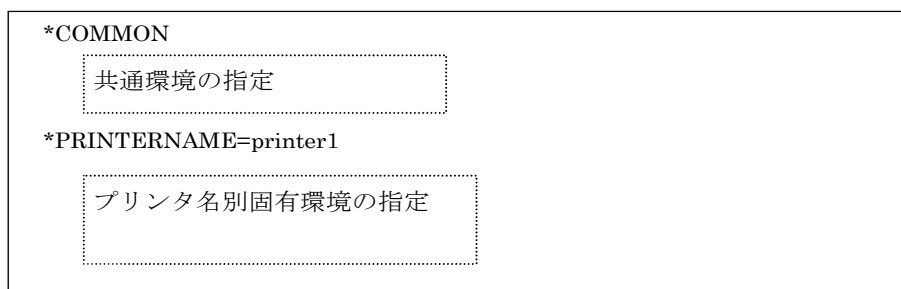
### (1) 変更方法

変更方法は、viコマンド等のテキストエディタを使用します。ファイルの格納先は以下のとおりです。

```
/etc/opt/FJSVbsnps/bsnps/bsnpsenv
```

### (2) ファイル構成

ファイルは、共通環境とプリンタ名別固有環境から構成されています。



付図B.1 環境ファイルの構成

### (3) 共通環境とプリンタ名別固有環境

環境ファイルには、共通環境とプリンタ名別固有環境が指定できます。共通環境では、すべてのサポートプリンタ装置共通の環境を定義します。プリンタ名別固有環境では、特定のプリンタ名のみ環境を変更したい時に指定します。

共通環境は \*COMMONの行から \*PRINTERNAMEの前の行までです。なお、\*COMMONの行は絶対に削除しないでください。削除された場合は、動作保証できません。

プリンタ名別固有環境では、共通環境のFCBPRINT（FCB用紙長単位指定）、およびLOGFILESIZE（通信電文ログファイル容量）以外の項目が指定可能です。

環境定義内容の設定値に指定外の値が設定されている場合は、省略値が設定されたものと見なして動作します。プリンタ名別固有環境がない場合は共通環境が有効になります。共通環境に値がない場合は省略値を設定します。

## (4) 環境ファイルのプリンタ装置ごとのサポート機能

環境ファイルのプリンタ装置ごとのサポート機能一覧を付表B.1に示します。

付表B.1 環境ファイルのプリンタ装置ごとのサポート機能一覧

項 目	プリンタ装置のエミュレーションとプリンタタイプ		
	FNP		66XX
	ページプリンタ (単票)	ページプリンタ (連帳)	インパクトプリンタ
NOCANCELBANNER	○	○	×
DISCOMTIME	○	○	○
INET	○(注)	×	×
PAPERCODE	○	○	○
BANNERPCODE	○	○	×
TTFOLDER	×	○	×
TTFNAMEM	×	○	×
TTFNAMEG	×	○	×
TTFAREA	×	○	×
CONDITION	×	○	×
OFFSET	×	○	×
JEFCHARCODE	×	×	○
JOBINFO	×	○	×
FCBPRINT	×	○	×
CONVERR	○	○	○
RESUME	○	○	○
RETRYINTERVAL1	○	○	○
RETRYINTERVAL2	○	○	○
LOG	○	○	○
LOGRECORD	○	○	○
LOGFILESIZE	○	○	○

○：サポート機能、×：未サポート機能

(注) VSP4530B、VSP4540B、VSP4730Bのみサポート。

### B.1.1 NOCANCELBANNER（キャンセルバナーページの抑止）

NOCANCELBANNERは、キャンセルバナーページを印刷するか、しないかを指定する項目です。インパクトプリンタで印刷する場合、キャンセルバナーページの印刷は未サポートのため、この指定は無効となります。

**NOCANCELBANNER : y（省略値）、n の何れかを指定**

- ‘y’ を指定した場合  
キャンセルバナーページを印刷しません。
- ‘n’ を指定した場合  
キャンセルバナーページを印刷します。

### B.1.2 DISCOMTIME（無通信監視タイマー）

DISCOMTIMEは、プリンタ装置とホスト間の無通信監視タイマー値を秒単位で指定する項目です。180秒（3分）から3600秒（60分）までが指定可能です。なお、印刷要求ごとの最初のプリンタ装置アクセスだけは指定された値の1/10とします。（例えば、300秒を指定した場合は30秒となります。）ただし、環境によってはこれより短くなる場合があります。

**DISCOMTIME : 無通信監視タイマー値（省略時は 300秒（5分））**

プリンタ装置への印刷要求に対して、ネットワーク上の応答の最大待ち合わせ時間は、本項目に指定された値です。この間にプリンタ装置から応答がない場合（プリンタ装置やネットワーク上の異常による）、通信エラーで異常終了します。なお、待ち合わせ中は、印刷状態表示の画面などでは、「印刷中」と表示されています。

### B.1.3 INET（ネットワーク接続指定）

INETは、プリンタ装置とホスト間の通信プロトコル（IPv4またはIPv6）を指定する項目です。本項目は、印刷先のプリンタ名がIPアドレスではなく、ホスト名で定義されている場合のみ有効となります。

**INET : a（省略値）、6、4の何れかを指定**

- ‘a’ を指定した場合  
名前解決（ホスト名からIPアドレスへの変換）で取得したIPアドレスで接続します。IPv4とIPv6両方のアドレスを取得した場合、取得した順に接続を試みます。取得の順序はシステムに依存します。（注）
- ‘6’ を指定した場合  
名前解決でIPv4とIPv6両方のアドレスを取得しても、IPv6でのみ接続します。
- ‘4’ を指定した場合  
名前解決でIPv4とIPv6両方のアドレスを取得しても、IPv4でのみ接続します。

（注）

一方のアドレスで接続できなかった場合、もう一方のアドレスで接続を試みます。このため、プリンタ装置からの応答の待ち合わせ時間が2倍となります（最初のアクセス時のみ）。応答の待ち合わせ時間については「B.1.2 DISCOMTIME（無通信監視タイマー）」を参照してください。

### B.1.4 PAPERCODE（用紙掛け替え通知）

PAPERCODEは、用紙掛け替えメッセージ通知をするか、しないか、または前回の用紙掛け替えメッセージを記憶しておき、前回と違う場合のみ通知するかを指定する項目です。

#### PAPERCODE : y、n、a（省略値）の何れかを指定

- ‘y’ を指定した場合  
用紙掛け替えメッセージを通知します。
- ‘n’ を指定した場合  
用紙掛け替えメッセージを通知しません。
- ‘a’ を指定した場合  
前回の用紙掛け替えメッセージを記憶しておき、前回と違う場合のみ通知します。

### B.1.5 BANNERPCODE（用紙掛け替え通知タイミング）

BANNERPCODEは、用紙掛け替えメッセージ通知をするタイミングを、バナーページ印刷前に通知するか、バナーページ印刷後に通知するかを切り替える項目です。

#### BANNERPCODE : y、n（省略値）の何れかを指定

- ‘y’ を指定した場合  
バナーページ印刷前に、用紙掛け替えメッセージを通知します。
- ‘n’ を指定した場合  
バナーページ印刷後に、用紙掛け替えメッセージを通知します。

### B.1.6 TTFFOLDER（TrueTypeフォント外字ファイル格納パス）

TTFFOLDERは、TrueTypeフォント外字ファイル格納パスをフルパスで指定する項目です。  
この項目は、行頭の“#”をはずして使用してください。  
省略時は“/usr/local/lib/FJSLp/ttf”です。

#### TTFFOLDER : TrueTypeフォント外字ファイル格納パス（最大255文字（注））

（注）

本項目で指定するパスは、「B.1.7 TTFNAMEM（TrueTypeフォント明朝体外字ファイル名）」および「B.1.8 TTFNAMEG（TrueTypeフォントゴシック体外字ファイル名）」で指定する外字ファイル名を付加した状態で、合計255文字以内となるように指定してください（外字ファイル格納パス終端の“/”を含みます）。

また、本項目のパス名が255文字を超えた場合は、無効（省略時と同じ）となりますので注意してください。

### B.1.7 TTFNAMEM (TrueTypeフォント明朝体外字ファイル名)

TTFNAMEMは、TrueTypeフォント明朝体外字ファイル名を指定する項目です。

この項目は、行頭の“#”をはずして使用してください。

なお、ファイル名には“.tte” “.ttf” “.TTE” “.TTF”のいずれかの拡張子が付加されている必要があります。

(注)

16文字を超えるファイル名を指定した場合、本項目の指定は無効（登録されない）となりますので注意してください。

**TTFNAMEM : TrueTypeフォント明朝体外字ファイル名（拡張子を含めて最大16文字）**

### B.1.8 TTFNAMEG (TrueTypeフォントゴシック体外字ファイル名)

TTFNAMEGは、TrueTypeフォントゴシック体外字ファイル名を指定する項目です。

この項目は、行頭の“#”をはずして使用してください。

なお、ファイル名には“.tte” “.ttf” “.TTE” “.TTF”のいずれかの拡張子が付加されている必要があります。

(注)

16文字を超えるファイル名を指定した場合、本項目の指定は無効（登録されない）となりますので注意してください。

**TTFNAMEG : TrueTypeフォントゴシック体外字ファイル名（拡張子を含めて最大16文字）**

### B.1.9 TTFAREA (TrueTypeフォント外字登録範囲)

TTFAREAは、TrueTypeフォント外字登録範囲を指定する項目です。

この項目は、行頭の“#”をはずして使用してください。

UNICODE外字域のF1F0H～F84FHの範囲には、UNICODEコードで定義されていないJEF拡張文字が登録されています。この領域をユーザ外字として使用するかどうかを切り替えるために本項目を使用します。

**TTFAREA : A（省略値）、Jの何れかを指定**

- ‘A’を指定した場合  
UNICODE全範囲（E000H～F8FFH）に外字を登録します。
- ‘J’を指定した場合  
JEF拡張文字コード域（F1F0H～F84FH）を除く範囲に外字を登録します。

‘A’を指定した後、‘J’を指定すると、JEF拡張文字コード域（F1F0H～F84FH）は復元されます。

### B.1.10 CONDITION (TrueTypeフォント外字登録モード)

CONDITIONは、TrueTypeフォント外字登録条件を指定する項目です。  
この項目は、行頭の“#”をはずして使用してください。

#### CONDITION : 0、1 (省略値)、2、3 の何れかを指定

- ‘0’ を指定した場合  
プリンタ装置にTrueTypeフォント外字が未登録の場合に登録します。
- ‘1’ を指定した場合  
プリンタ装置にTrueTypeフォント外字が未登録または登録済フォントファイル名が指定ファイル名と異なる場合に登録します。  
また、登録済フォントファイル名が指定ファイル名と同じでも、登録範囲が異なる場合は登録します。登録範囲については「B.1.9 TTFAREA (TrueTypeフォント外字登録範囲)」を参照してください。
- ‘2’ を指定した場合  
プリンタ装置にTrueTypeフォント外字を必ず登録します。
- ‘3’ を指定した場合  
プリンタ装置にTrueTypeフォント外字を登録しません。

### B.1.11 OFFSET (コピーセパレーションマーク)

OFFSETは、ページプリンタ (連帳) の印刷要求単位でコピーセパレーションマーク (用紙のミシン目に1本線、または2本線を付ける) の本数を切り替える時に指定する項目です。

#### OFFSET : y、n (省略値) の何れかを指定

- ‘y’ を指定した場合  
コピーセパレーションマークの本数を切り替えます。  
1本線から2本線に、または2本線から1本線に切り替わります。切替えが有効になるのは1ページ目と2ページ目の間のミシン目からになります。プリンタ装置の電源投入後のコピーセパレーションマークは1本線になります。  
なお、エラーのリカバリ時に先頭ページから自動再開される場合には、再度マークの本数が切り替わることがあります。
- ‘n’ を指定した場合  
コピーセパレーションマークの本数を切り替えません。

### B.1.12 JEFCHARCODE（文字コード変換指定）

JEFCHARCODEは、日本語文字を領域重視で変換を行うか、字形重視で変換を行うかを指定する項目です。字形重視で変換を行う場合は、『Interstage Charset Manager』が必要です。

この指定により、変換後の文字が異なるものがあります（例えば、“遙”、“扉”、“堯”など）。

例）“遙”という文字は以下のように変換されます。

領域重視で変換：“遙”

字形重視で変換：“遥”

#### JEFCHARCODE : COR（省略値）、AUG の何れかを指定

- “COR”を指定した場合  
領域重視で文字コードを変換します。
- “AUG”を指定した場合  
字形重視で文字コードを変換します。

### B.1.13 JOBINFO（ジョブ情報通知）

JOBINFOは、プリンタ装置に対してジョブ情報を通知するか、しないかを指定する項目です。

#### JOBINFO : y、n（省略値）の何れかを指定

- ‘y’を指定した場合  
プリンタ装置にジョブ情報を通知します。  
これにより、プリンタ装置の液晶パネルに以下の(1)または(2)の情報が先頭から16文字分表示されます。表示可能な文字は英数字、および、“.”（ピリオド）のみです。その他の文字は“\_”（アンダーバー）となります。なお、表示可能なプリンタ装置については、付表B.1の（注2）を参照してください。
  - (1) 印刷時にlpコマンドオプションのタイトル指定を行った場合  
タイトルとして指定された文字列が表示されます。lpコマンドオプションのタイトル指定については、「【操作編】2.2.9 -t title（タイトル指定）」を参照してください。なお、タイトル文字列の中に“/”が含まれていた場合、“/”より前の文字は表示されません。例えば、タイトル指定が“title/sample”の場合、“sample”という文字列が表示されます。
  - (2) 印刷時にlpコマンドオプションのタイトル指定を行わなかった場合  
印刷ファイル名が表示されます。表示されるファイル名にはパスは含まれません。例えば、印刷ファイル名が“/tmp/sample.data”の場合、“sample.data”という文字列が表示されます。また、複数ファイルを印刷した場合（lpコマンド実行時に印刷ファイル名を複数指定した場合）には、先頭のファイル名が表示されます。
- ‘n’を指定した場合  
プリンタ装置にジョブ情報を通知しません。



### B.1.14 FCBPRINT (FCB用紙長単位指定)

FCBPRINTは、FCBファイルで指定された用紙長を1インチ単位で切り上げるか、0.5インチ単位で切り捨てるかを指定する項目です。

例) FCBのprint項目の“用紙の長さ” (単位: 1/7200インチ) に61920を指定した場合、用紙長は以下のようになります。FCBによる用紙長指定については、「【機能編】 5.6 COBOL印刷 (3) FCB使用時の用紙長設定について」を参照してください。

$61920 \div 7200 = 8.6$ となるので

1インチ単位で切り上げた場合 : 9インチ

0.5インチ単位で切り捨てた場合 : 8.5インチ

<b>FCBPRINT : 1 (省略値)、2 の何れかを指定</b>
-------------------------------------

- ‘1’ を指定した場合  
1インチ単位で切り上げます。
- ‘2’ を指定した場合  
0.5インチ単位で切り捨てます。

### B.1.15 CONVERR (データ変換エラー通知)

CONVERRは、データ変換中にエラーが発生した場合の通知方法、および動作を指定する項目です。

<b>CONVERR : e (省略値)、w の何れかを指定</b>
------------------------------------

- ‘e’ を指定した場合  
CUPSのログファイル (注) にエラーメッセージを出力し、印刷を終了します。
- ‘w’ を指定した場合  
エラーメッセージを通知します。エラーが発生している印刷要求をキャンセル、または保留するまで、そのままの状態で待機します。

(注) CUPSのログファイルについては「【機能編】 14.2 CUPSのログファイル」を参照してください。

## B.1.16 RESUME（保留再開）

RESUMEは、保留（注）やlpコマンドオプションの変更等により中断した印刷要求を再開する時、先頭ページから再開するか、中断したページから再開するかを指定する項目です。

本項目は、ページ位置を指定する操作を行わなかった場合の動作を決めるものです。

（注）本製品のアラート機能を使用して保留した場合は、本項目による指定は無効となり、常に中断したページからの再開となります。

### RESUME：1（省略値）、2の何れかを指定

- ‘1’ を指定した場合  
先頭ページから再開します。
- ‘2’ を指定した場合  
中断したページ（中断前に印刷を完了したページの次のページ）から再開します。

中断した印刷要求を再開する時、lpコマンドオプションの変更や、アラート機能などによって、任意のページ位置を指定することが可能です。

本項目に‘2’を指定した場合、再開ページ位置の指定内容が無効となることがありますので注意してください。

付表B.2 RESUMEに‘2’を指定した場合の再開ページ位置

再開ページ位置の指定方法	指定ページ位置	結果（再開位置）
指定しない場合	なし	中断ページから再開される。
指定した場合（注）	中断ページ以前	指定したページが無効となり、中断ページから再開される。
	中断ページ以降	指定したページから再開される。

（注）lpコマンドオプション“-P Page-list”や“-o -y\_nfpage”を指定した場合や、アラート機能で印刷再開ページを指定した場合など

### B.1.17 RETRYINTERVAL1（リトライ間隔1）

本製品では、続行不可能なエラー（注）を検出すると、いったん印刷処理を中止し、一定時間待機した後、自動的にリトライを行います。

RETRYINTERVAL1は、その際のリトライの間隔（待機時間）を指定する項目です。60秒（1分）から600秒（10分）までが指定可能です。また、‘off’を指定することで、自動リトライを抑止することも可能です。

（注）

続行不可能なエラーとは、下記のエラーです。

- プリンタ装置の重度のエラー（復旧不可能なハードエラーや電源断）
- 通信異常
- 印刷データの異常
- サーバ上での異常（メモリ不足やオーバーレイファイルへのアクセス異常など）

#### RETRYINTERVAL1：自動リトライ間隔（省略時は 60秒（1分））、off の何れかを指定

- ‘自動リトライ間隔（秒）’を指定した場合  
指定した時間待機した後、自動的にリトライします。
- ‘off’を指定した場合  
待機したままとなり、自動的にはリトライしません。

待機を解除してリトライするには次の方法があります。

- bsnpsrestart（リトライ待機解除）コマンドの実行
- アラート機能による印刷再開

補足.

待機中の印刷を中断する操作を行っても、待機は解除されます。例えば、保留やCUPSスケジューラの停止などでも待機は解除され、保留再開、CUPSスケジューラの起動で印刷が再開されます。

### B.1.18 RETRYINTERVAL2（リトライ間隔2）

本製品では、プリンタ装置から接続拒否の通知（注）を受けると、いったん印刷処理を中止し、一定時間待機した後、自動的にリトライを行います。

RETRYINTERVAL2は、その際のリトライの間隔（待機時間）を指定する項目です。60秒（1分）から600秒（10分）までが指定可能です。また、‘off’を指定することで、自動リトライを抑止することも可能です。

（注）

「0217(FJSVbsnps) プリンタ装置との接続に失敗しました」のメッセージが通知されます。詳細は、「【機能編】6.3 複数ホストからの印刷」を参照してください。

#### RETRYINTERVAL2：自動リトライ間隔（省略時は 60秒（1分））、off の何れかを指定

- ‘自動リトライ間隔（秒）’を指定した場合  
指定した時間待機した後、自動的にリトライします。
- ‘off’を指定した場合  
待機したままとなり、自動的にはリトライしません。

待機を解除する方法は、「B.1.17 RETRYINTERVAL1（リトライ間隔1）」の場合と同様です。

### B.1.19 LOG（トレースログ採取）

LOGは、本製品でトラブルが発生した場合にトラブル原因を解析するためにトレースログ（テキスト形式／バイナリ形式の両方）を採取するか、しないかを指定する項目です。

**LOG : y、n（省略値）、t、b の何れかを指定**

- ‘y’ を指定した場合  
トレースログを採取します。
- ‘n’ を指定した場合  
トレースログを採取しません。
- ‘t’ を指定した場合  
テキスト形式のトレースログのみ採取します。
- ‘b’ を指定した場合  
バイナリ形式のトレースログのみ採取します。

### B.1.20 LOGRECORD（トレースログレコード長）

LOGRECORDは、トレースログを採取する際のレコード長をバイト単位で指定する項目です。

16～8192バイトの範囲で指定します。省略時は8192バイトが指定されたものとみなします。指定が8192バイトを超えた場合は8192バイトとみなします。

**LOGRECORD : レコード長（バイト）、allの何れかを指定**

- ‘レコード長（バイト）’ を指定した場合  
指定したレコード長でトレースログを採取します。
- ‘all’ を指定した場合  
トレースログ（要求電文、応答電文共通）すべてを採取します。

### B.1.21 LOGFILESIZE（トレースログファイル容量）

LOGFILESIZEは、トレースログファイルの容量をキロバイト単位で指定する項目です。指定値の上限は2097151（キロバイト）です。省略時に「B.1.19 LOG（トレースログ採取）」でトレースログ採取指定がある場合は、2048（キロバイト）が指定されたものとみなします。ログが指定されたファイル容量を超える場合は、ファイルの先頭から上書きし、サイクリックに使用します。

**LOGFILESIZE : トレースログファイル容量（キロバイト）**

### B.1.22 \*PRINTERNAME（プリンタ名別固有環境の宣言）

\*PRINTERNAMEは、プリンタ名別固有環境の定義を宣言する項目です。共通環境の内容を変更したい特定のプリンタ装置がある場合に指定します。共通環境で指定したFCBPRINT、およびLOGFILESIZE以外の項目を変更することができます。複数のプリンタ名を変更したい場合は、繰り返して設定します。

**\*PRINTERNAME=プリンタ名**

---

## 付録C setprtコマンド（旧バージョン互換）

本製品の旧バージョン (V14L80まで) において、プリンタ名の定義を行うときに使用したsetprtコマンドについて説明します。本バージョンでも使用可能です。  
構成は、以下のとおりです。

### C.1 setprt（プリンタ定義）コマンド

## C.1 setprt（プリンタ定義）コマンド

setprt（プリンタ定義）コマンドを使用して、プリンタ名を定義します。  
定義方法を以下に示します。

### C.1.1 ページプリンタ（単票）のプリンタ名の定義方法

1. “プリンタ定義コマンド（setprt）”を任意のディレクトリに複写します。

```
# cp /opt/FJSVbsnps/usr/lib/bsnps/setprt /tmp
```

2. viコマンド等のテキストエディタを使用し、

```
## setup : FNP VSP4530B,VSP4540B,VSP4730B -----
##$SETPRT -k LBPFNP -p "printer-name" -h "printer-host-name" -t "printer-type" -n "prt-num"
```

の部分を以下のようにカスタマイズします。

- a) ##\$SETPRT行の先頭の“#”を削除します。
- b) “printer-name”にプリンタ名を設定します。
- c) “printer-host-name”にプリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを設定します。  
IPv6の場合は必ずホスト名を設定してください。IPアドレスは設定できません。
- d) “printer-type”にプリンタ装置の型名を設定します。  
VSP4530B、VSP4540B、VSP4730Bのいずれかを設定します。
- e) “prt-num”にプリンタの論理プリンタ番号を設定します。論理プリンタ番号が1のときは、“1”を設定します。

<設定例>

```
## setup : FNP VSP4530B,VSP4540B,VSP4730B -----
$SETPRT -k LBPFNP -p vsp4730 -h vsp4730b -t VSP4730B -n 1
```

3. カスタマイズ終了後、本コマンドを実行します。

```
# /tmp/setprt
```

## C.1.2 ページプリンタ (連帳) のプリンタ名の定義方法

1. “プリンタ定義コマンド (setprt)” を任意のディレクトリに複写します。

```
# cp /opt/FJSVbsnps/usr/lib/bsnps/setprt /tmp
```

2. viコマンド等のテキストエディタを使用し、

```
## setup : FNP PS5110,PS5230,PS5600 -----
#$SETPRT -k NLPEXFNP -p "printer-name" -h "printer-host-name" -t "printer-type" -n "1"
```

の部分を下のようにカスタマイズします。

- a) #\$SETPRT行の先頭の“#”を削除します。
- b) “printer-name”にプリンタ名を設定します。
- c) “printer-host-name”にプリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを設定します。
- d) “printer-type”にプリンタ装置の型名を設定します。  
PS5110、PS5230、PS5600のいずれかを設定します。

<設定例>

```
## setup : FNP PS5110,PS5230,PS5600 -----
$SETPRT -k NLPEXFNP -p ps5600 -h ps5600 -t PS5600 -n 1
```

3. カスタマイズ終了後、本コマンドを実行します。

```
# /tmp/setprt
```

### C.1.3 インパクトプリンタのプリンタ名の定義方法

1. “プリンタ定義コマンド（setprt）”を任意のディレクトリに複写します。

```
# cp /opt/FJSVbsnps/usr/lib/bsnps/setprt /tmp
```

2. viコマンド等のテキストエディタを使用し、

```
## setup : JEF VSP2740B,VSP2750B
##          VSP2851B,VSP2910H
##          VSP3601A,VSP3710B,VSP3802B
##$SETPRT -k SLP66 -p "printer-name" -h "printer-host-name" -t "printer-type" -n "1"
```

の部分を経以下のようにカスタマイズします。

- a) ##\$SETPRT行の先頭の“#”を削除します。
- b) “printer-name”にプリンタ名を設定します。
- c) “printer-host-name”にプリンタ装置のホスト名またはIPアドレスを設定します。
- d) “printer-type”にプリンタ装置の型名を設定します。  
VSP2750B、VSP2740B、VSP2851B、VSP2910H、VSP3601A、VSP3710B、VSP3802Bのいずれかを設定します。

<設定例>

```
## setup : JEF VSP2740B,VSP2750B
##          VSP2851B,VSP2910H
##          VSP3601A,VSP3710B,VSP3802B
##$SETPRT -k SLP66 -p vsp2910h -h vsp2910h -t VSP2910H -n 1
```

3. カスタマイズ終了後、本コマンドを実行します。

```
# /tmp/setprt
```



## C.1.4 エラーメッセージ一覧

メッセージ

```
setprt: Unknown option !
```

【意味】 指定可能なオプション以外が入力されました。

【対処】 指定したオプションを確認し、コマンドを実行してください。

メッセージ

```
setprt: Printer name is nothing
```

【意味】 プリンタ名が定義されていません。

【対処】 プリンタ名を定義してください。

メッセージ

```
setprt: Printer name is wrong(too long)
```

【意味】 プリンタ名の文字数が15文字以上で定義されています。

【対処】 プリンタ名を14文字以内で定義してください。

メッセージ

```
setprt: Printer name is wrong
```

【意味】 プリンタ名に以下の誤りがあります。

- ・プリンタ名の先頭が英字以外で定義されています。
- ・プリンタ名の最後が“-[数字]”で定義されています。
- ・プリンタ名が“all”と定義されています。

【対処】 プリンタ名を正しく定義してください。

メッセージ

```
setprt: Host is nothing
```

【意味】 ホスト名が定義されていません。

【対処】 ホスト名を定義してください。

メッセージ

```
setprt: Host is wrong
```

【意味】 ホスト名に以下の誤りがあります。

- ・ホスト名に“/”、“:”が含まれています。

【対処】 ホスト名を正しく定義してください。

メッセージ

```
setprt: PrintingType is nothing
```

【意味】 エミュレーションが定義されていません。

【対処】 エミュレーションを定義してください。

メッセージ

```
setprt: PrintingType is not set printingtypename
```

【意味】 エミュレーションの指定に誤りがあります。

【対処】 エミュレーションには、LBPFPNP、NLPEXFPNP、SLP66のいずれかを定義してください。

メッセージ

setprt: PrinterType is nothing

【意味】プリンタタイプが定義されていません。

【対処】プリンタタイプを定義してください。

メッセージ

setprt: PrinterType is not set *printertypename*

【意味】プリンタタイプの指定に誤りがあります。

【対処】サポートされているプリンタタイプを指定してください。プリンタタイプについては「付録A.1 サポートプリンタ」を参照してください。

メッセージ

setprt: PrinterNo is nothing

【意味】論理プリンタ番号が定義されていません。

【対処】論理プリンタ番号を定義してください。

メッセージ

setprt: PrinterNo is not set *printerno*

【意味】論理プリンタ番号の指定に誤りがあります。

【対処】論理プリンタ番号には、VSP4730Bの場合は1～8、VSP4530B/VSP4540Bの場合は1～3、その他の場合は1を定義してください。

メッセージ

setprt: FJSVbsnp8 is not installed

【意味】本製品が正しくインストールされていません。

【対処】本製品を再インストールしてください。

メッセージ

setprt: An unexpected error occurred

【意味】想定しないエラーが発生しました。

【対処】「【保守編】第3部 保守情報」に従って保守資料を採取し、富士通技術員（SE）に連絡してください。